



令和6年度
水産大学校案内

Campus Guide 2024

National Fisheries University

海から食卓まで 水産のあらゆる分野を学ぶ



幅広く海の仕事をカバーする水産大学の5学科 めざせる職業

- | 水産流通経営学科 | 海洋生産管理学科 | 海洋機械工学科 | 食品科学科 | 生物生産学科 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・漁協などの団体 ・水産流通会社 ・水産会社 ・水産関係の公務員 など | <ul style="list-style-type: none"> ・船の船長 ・エコ漁網開発の研究者 ・水産会社 ・水産関係の公務員 など | <ul style="list-style-type: none"> ・船の機関長 ・冷凍装置の設計者 ・造船所の設計者 ・水産関係の公務員 など | <ul style="list-style-type: none"> ・水産食品メーカー ・水産物の食品開発・研究者 ・食品衛生の管理・監視担当者 ・水産関係の公務員 など | <ul style="list-style-type: none"> ・海・川などの環境の研究者 ・魚の病気などの研究者 ・水産会社 ・水産関係の公務員 など |

●水産大学校の沿革 02

●各ポリシー・教育の特色 04

●発見・感動はこのキャンパスから 06

●学生支援体制 09

- ①生活支援：奨学制度
入学料免除
授業料免除
学生寮
アパート等の紹介
- ②就職支援：就職率
就職ガイダンス
合同企業説明会

●学科紹介

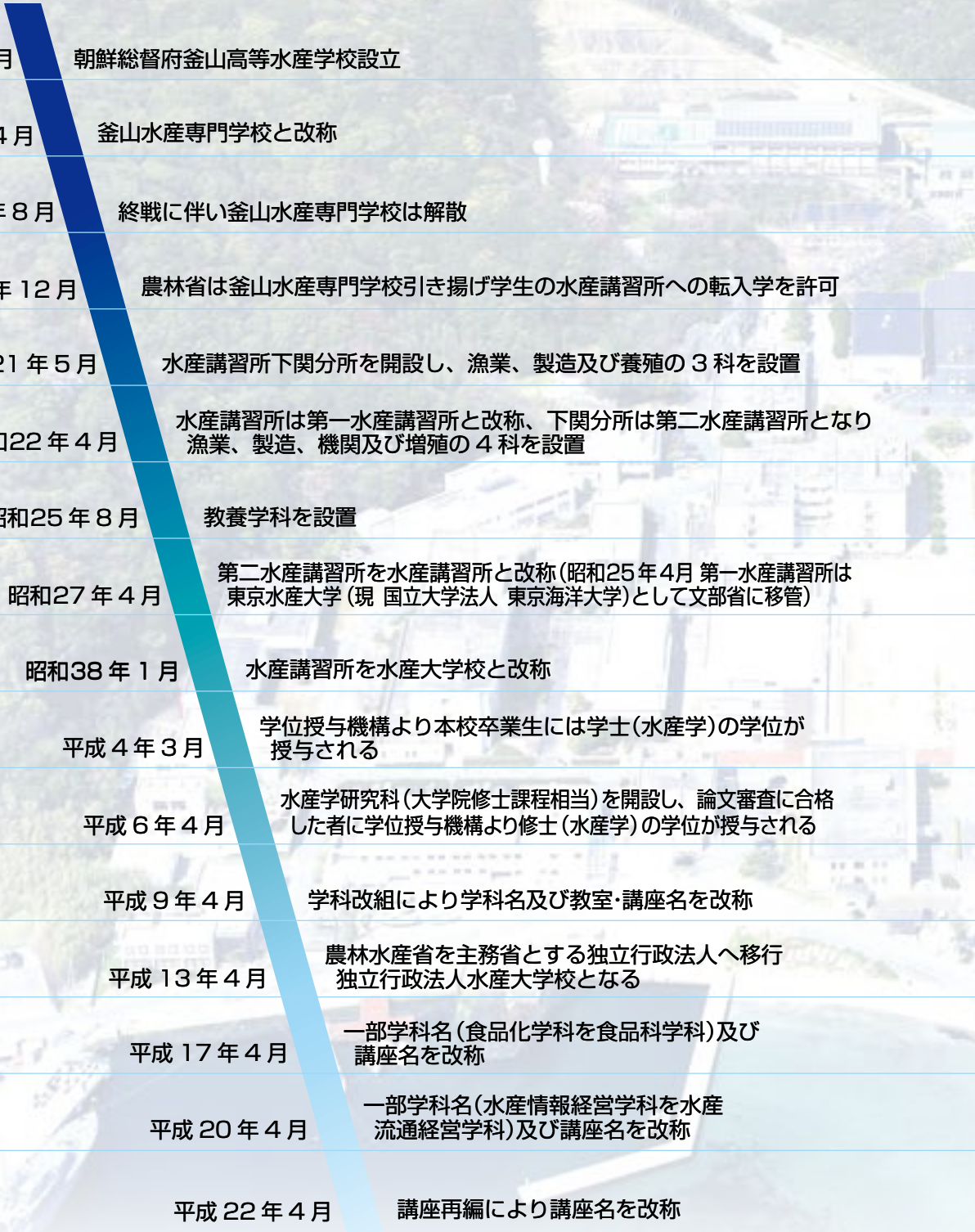
修業年限 4 年 取得学位：学士（水産学）



●実習教育センター 36

●サークル紹介 38

水産大学校の沿革

- 
- 昭和16年4月 朝鮮総督府釜山高等水産学校設立
- 昭和19年4月 釜山水産専門学校と改称
- 昭和20年8月 終戦に伴い釜山水産専門学校は解散
- 昭和20年12月 農林省は釜山水産専門学校引き揚げ学生の水産講習所への転入学を許可
- 昭和21年5月 水産講習所下関分所を開設し、漁業、製造及び養殖の3科を設置
- 昭和22年4月 水産講習所は第一水産講習所と改称、下関分所は第二水産講習所となり漁業、製造、機関及び増殖の4科を設置
- 昭和25年8月 教養学科を設置
- 昭和27年4月 第二水産講習所を水産講習所と改称(昭和25年4月 第一水産講習所は東京水産大学(現 国立大学法人 東京海洋大学)として文部省に移管)
- 昭和38年1月 水産講習所を水産大学校と改称
- 平成4年3月 学位授与機構より本校卒業生には学士(水産学)の学位が授与される
- 平成6年4月 水産学研究科(大学院修士課程相当)を開設し、論文審査に合格した者に学位授与機構より修士(水産学)の学位が授与される
- 平成9年4月 学科改組により学科名及び教室・講座名を改称
- 平成13年4月 農林水産省を主務省とする独立行政法人へ移行
独立行政法人水産大学校となる
- 平成17年4月 一部学科名(食品化学科を食品科学科)及び講座名を改称
- 平成20年4月 一部学科名(水産情報経営学科を水産流通経営学科)及び講座名を改称
- 平成22年4月 講座再編により講座名を改称
- 平成28年4月 水産総合研究センターと統合し、国立研究開発法人水産研究・教育機構が発足
水産大学校は機構の人材育成業務を担当する教育機関となる

水産大学校 代表 あいさつ

海大好き、魚大好き、船大好き・・・大歓迎！



国立研究開発法人
水産研究・教育機構
理事（水産大学校代表）

博士（農学） 荒井 修亮

水産大学校は、農林水産省が所管する水産に関する高等教育機関です。修業年限4年の本科に加えて同2年の研究科、そして同1年の専攻科を擁しています。卒業すればそれぞれ学士、修士ならびに上級海技士などさまざまな資格を得ることができます。

日本は四方を海に囲まれた海洋国家です。このため、古来海の幸をいただく漁業は、津々浦々で私たちの食生活を支えて発展してきました。世界文化遺産に登録された「和食」は、鰹節や昆布などの水産加工品から得られる「出汁」がなければ成り立ちません。津々浦々で得られた魚介類は鮮魚としての利用は言うまでもなく、その特性に合った食品に加工され日本各地で利用されてきました。

こうした海からの恵みである海洋生物は、本来再生可能な資源です。しかし近年、さまざまな要因で資源量が減少し、不漁が続くといった事態が生じています。合わせて、我が国の人口の減少と、急激な高齢化が進むなかで、水産業を支える根幹である漁業従事者の減少が問題となっています。このような状況において、いま国を挙げて、水産政策の転換が図られているところです。

水産に関係する業界や研究・行政機関は、世界的な視野に立ちつつも、現場目線で問題を柔軟に解決できる人材を求めています。これからの新しい水産の世界は、若い皆さんの力にかかっています。私たち水産大学校の教職員一同、これからの水産を切り開く仲間として、皆さんを心から歓迎いたします。

校長あいさつ

「水産のスペシャリスト」を目指す意欲に満ちた皆さんを待っています



水産大学校校長

博士（水産科学） 下川 伸也

人類共有の財産である「海からの恵み」を維持し、限られた資源を持続可能な形で利用するためには、机上の学問だけでなく、常に現場と結びついた実学としての「水産学」が重要となります。水産大学校には、水産業の持続可能な発展に貢献し、水産資源の適切な管理や漁業・養殖業の生産性向上及び流通構造の改革など、多岐にわたる水産分野で活躍できる人材を育てるという大きな使命があります。

また、水産庁ではICT、IoT等の先端技術の活用により、水産資源の持続的利用と水産業の産業としての持続的成長の両立を実現する次世代の水産業として「スマート水産業」が推進されています。このような要請に応えるため、水産大学校の学生は、海洋生産から水産機械、食品加工、資源生物、流通・経営まで、水産のあらゆる分野を学ぶことができる教育体制のもと、関連する諸課題に関わる基礎から応用に至るまでの研究を行ないます。

教育環境として、広いキャンパスに加えて2隻の大型練習船、キャンパス外の実験実習場など、充実した施設・設備を備え、少人数の大学校の特性を活かした、きめ細かな修学指導・進路指導により高い就職率を誇っています。

水産大学校の建学精神である実学を重視した「水産学」を学んだ卒業生が、「水産のスペシャリスト」として、国内外の水産業界で活躍しており、その実績は高く評価されています。今、まさに高い「志」を持った皆さんの夢と希望の実現が、ここ下関の地から始まることを期待しています。

学生部長あいさつ

水産大学校とはどんなところ



水産大学校学生部長

博士（学術） 村瀬 昇

水産大学校は水産に関する4年制の大学校で、卒業すると学士（水産学）の学位が授与されます。卒業後は、本校の水産学研究科（修業年限2年：修士の学位が取得可能）、専攻科（修業年限1年）や他大学の大学院に進学する道が開かれています。専攻科に進学すると、国際的なライセンスである海技士の免許が取得できます。このライセンスが取得できる大学は、国内では数校しかなく、本校の大きな特色です。

授業料は国立大学とほぼ同額で、授業料免除制度、奨学金制度なども国立大学に準じており、全室個室の学生寮（男子寮、女子寮）もあり、経済的にも生活環境に恵まれています。

本校では、入学から卒業までの4年間でクラス担当教員が学生のみなさんを親身になってサポートしています。また、国際総トン数2,703トンの耕洋丸と1,354トンの天鷹丸という2隻の大型練習船による様々な乗船実習が行われます。その他にも、それぞれの学科の特色を活かした魅力ある講義や演習、実験、実習を通して、水産の実学を幅広く身に付けます。

本校の魅力や紹介の詳細については、この大学校案内と併せて、ホームページでもご覧いただき、ぜひ、本校をたずねてください。

「水産業を担う人材を育成」する水産大学校

日本は、暖流と寒流の交差する海に囲まれた世界有数の水産・海洋国家で、古来その豊穡さに潤されてきました。これからも海を護りつつ持続的にその恩恵に浴し、水産資源を効率的かつ安全に活用することによって、国柄を保っていく必要があります。

そのため水産大学校は、水産に関する学理と技術を学び研究させることにより、海の持続的利用と環境保全に配慮しながら水産業及びその関連分野で活躍できる人材を育成することを目的としています。

《ディプロマポリシー（人材育成の方針）》

水産大学校は、学習・教育到達目標を定め、これらの知識や能力を身に付けた学生を水産業及びその関連分野で活躍できる人材として卒業させます。

- 地球的視点から多面的に物事を考える能力
- 技術者としての倫理的責任を認識し理解できる能力
- 数学、自然科学および情報技術に関するリテラシーと応用力
- 該当する分野の専門技術に関する知識と問題解決能力
- 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- コミュニケーション能力と国際感覚
- 自主的・継続的に学習できる能力
- 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- チームで仕事をするための能力

《カリキュラムポリシー（教育課程の方針）》

水産大学校は、ディプロマポリシーに基づく教育目標を達成するため、次ページに掲げる方針に基づいて教育課程を編成し、水産業、水産資源、生命、環境に関する総合的応用科学・実学である水産学の教育・研究を行います。

《アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）》

水産大学校は、本校のカリキュラムをしっかりと受け止めることのできる、次のような学生を求めています。

- 社会人としての教養を身に付け得る将来性のある見込める学生
- 論理的な思考・判断やコミュニケーションに関する潜在的能力を期待できる学生
- 水産業及びその関連分野に関心を持ち、自然と人類との共生を真剣に考え、未知の分野について自ら学ぼうとする意欲が旺盛で、多様な人々と協働しながら、世界での活躍を目指す学生

※ 各ポリシーの詳細は、本校のホームページをご覧ください。

カリキュラムの方針 (特色)

- 水産全般に関する基本的な知識と各専門分野の教育を体系的に組み合わせ、俯瞰的視野を持つ水産の専門家を育成するカリキュラムを実施しています。
- 主体的に水産業およびその関連分野を担う有意な人材を育成するため、低学年での動機付け教育から高度の専門教育までを、講義と実習(乗船実習を含む)等や実地教育をくさび状に組み合わせた体系的なカリキュラムを実施しています。
- 水産(海や水産物、魚食等)に自然に慣れ親しめるカリキュラムを実施しています。
- 水産庁幹部職員や各分野の第一線に立つ講師による講義を行い、水産行政・研究、産業界、消費者等の最新の動向を的確に教育に反映しています。
- 高校から大学レベルの教育内容に円滑に移行させるため、理数系科目及び英語の「基礎セミナー」を実施し、リメディアル教育の充実を図り、基礎教育の強化に努めています。

JABEE 認定の教育プログラム

水産大学校の教育は、平成20年度に、日本技術者教育認定機構(JABEE)から、「教育活動の品質が満足すべきレベルに有り、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力(Minimum Requirement)の要請に成功し、技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしている」と認定されました。(※ JABEE:Japan Accreditation Board for Engineering Education)

これにより、平成17年度以降に入学した本校の卒業生は、技術士の第一次試験が免除される事となり、技術士(国家資格)となるための途が開かれました。

【水産大学校が育成する技術者像】

- ディプロマポリシーに掲げた学習・教育到達目標をクリアした技術者
- 「水産物の安定供給」と「水産業の健全な発展」の実現に向け、望ましい職業観・勤労観・倫理観を持ち、主体的に水産業及びその関連分野を担う有為な技術者
- 社会人基礎力に加えて水産に関する幅広い見識と技術を身に付け、創造性豊で水産現場での問題解決能力を備えた技術者

共通教育科目のラインナップ

教養教育科目				共通基礎科目	水産一般科目
人文科学系		社会科学系		外国語系	保健体育系
哲学	心理学	法学	国際社会と法	第一(英語)	体育理論
文学	海洋文化論	社会学	歴史学	第二(フランス語)	体育実技
				//(中国語)	
				//(スペイン語)	
					基礎解析学
					基礎物理学
					基礎化学
					基礎生物学
					情報科学
					確率統計学
					コンピュータ基礎
					技術者倫理
					応用物理学
					水産化学
					応用生物学
					水産学概論
					水産経済学Ⅰ
					水産経済学Ⅱ
					海と漁業生産
					水産資源論
					海洋環境と機械
					海洋水産機械概論
					食品安全利用学
					水産食品科学
					水産と生物
					増養殖技術論

※共通教育科目及び各学科専門教育科目のシラバスは、ホームページ (<https://www.fish-u.ac.jp/>) に掲載されています。

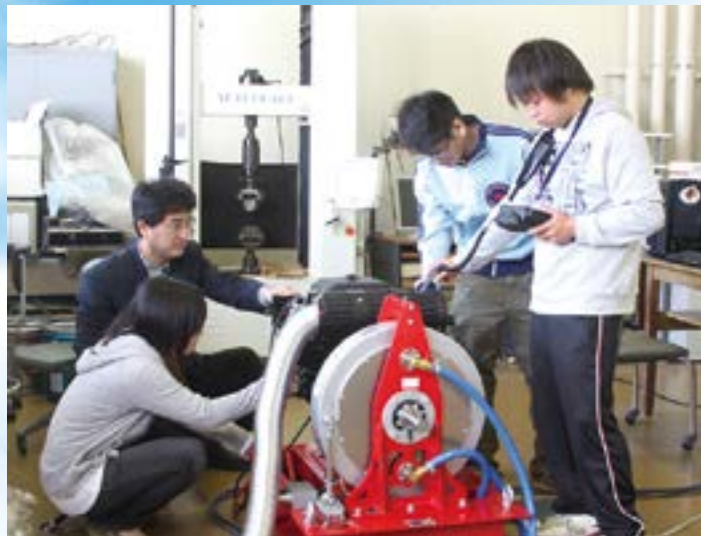
●常勤役員数 (令和5年4月1日現在)

理事 (水産大学校代表)	理事	校長	教授	准教授	講師	助教	一般職員	看護職員	海事教育職員	海事職員	計
1	1	1	25	17	16	17	38	1	32	34	183

発見・感動はこのキャンパスから！ (主な施設紹介)



授業風景



実験風景



講義棟 ▶

平成19年度建築
RC4階建

本校の核となる教育研究施設として、平成19年2月に建築工事に着手し、平成20年3月に竣工しました。4階建てのバリアフリー構造の施設の中に、300人教室を始め16室の教室、セミナー室1室、学生ラウンジや海に面するテラスなどを備え、各教室にはAV設備(プロジェクター、スクリーン、マイク等)が完備されています。



三学科共用 実験棟 ▶

昭和61年度建築
RC4階建

水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科の3学科に関連する建物で、各学科の教員室、研究室、実験室、演習室、製図室等を備えます。



実験風景



二学科共用 実験棟 ▶

平成3年度建築
RC4階建

食品科学科、生物生産学科の2学科に関連する建物で、各学科の教員室、研究室、実験室等を備えます。



▲ 多目的学生教育棟 平成24年度建築 RC2階建

水面を利用した各種実習や講義、海洋観測機器等の作動試験・水中観測等を行うための施設として、平成25年3月に竣工しました。2階に設置された25mプールは、観測窓を備えた5mの深部があり、救命実習等の講習や各種観察のほか、水泳などの体育やクラブ活動にも使用されます。



授業風景

マルチメディア ネットワーク センター ▶

平成6年度建築
RC2階建



情報処理教育、コンピュータ支援教育および学術研究のための共同利用施設で、パソコンを設置した2つの講義室があり、視聴覚教室としても利用できます。また、ここを起点としてインターネットに接続し、電子メールやホームページなどを利用して情報交換・取得ができます。



図書館内

図書館 ▶

平成6年度建築
RC2階建



水産や自然科学分野に関する書籍を中心に約13万冊を所蔵しています。自習机、新聞雑誌閲覧スペース(ブラウジングルーム)、および会議室や視聴覚室も備えており、視聴覚室ではDVD鑑賞もできます。海技試験に対応した図書も多数揃えています。



▲ 共同研究棟

A棟：平成11年度建築
RC4階建

B棟：平成11年度建築
RC2階建

学外の研究機関との共同研究・受託研究、国内の水産関係者・地域住民を対象とした技術研修・公開講座、さらには、学会・シンポジウム・国際会議等に利用しています。



学生コミュニティホール内

学生 コミュニティ ホール ▶

平成6年度建築
RC2階建



学生相互及び学生と教職員との交流を深めることにより、教養豊かな人間性と社会性の向上を図り、併せて厚生福祉に寄与することを目的とした施設です。ホール1階には水産大学校生活協同組合が運営する食堂と売店、2階には学生が自由に使える多目的ホールと学生自治会室があります。



◀ 学生サポート棟

(愛称：みなと館)

平成30年度建築
RC1階建



学生サポート棟内

修学支援、社会性・コミュニケーションのサポートなど本校の学生にとって学びやすい環境の充実を図ることを目的とした施設です。バリアフリー構造になっており、学生相談室、保健室、談話スペース、多目的トイレ等を備えています。



男子寮



寮生による学校裏海岸清掃の様子



女子寮

▲ **学生寮** 男子寮：昭和44年度建築（全面改修 平成15年度）
RC4階建
個室12.69㎡

女子寮：平成15年度建築
RC3階建
個室14.85㎡

食 堂：昭和44年度建築（厨房設備の一部改修等 平成23年度）
RC1階建

学生の勉学に適する環境において起居を共にし、共同生活を通じて社会性のかん養と人格の向上を図ることを目的とした寮で、男子寮と女子寮があります。全て個室でエアコン、洗面台、トイレ(女子寮)等を完備し、食堂、浴室、洗濯室等は共用となっています。

● 学生定員及び学生数（令和5年4月1日現在）（）内の数字は女子学生数で内数

本科学学生数

学 科	定員		現員				
	入学定員	総定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
水産流通経営学科	20	80	20 (0)	20 (5)	17 (2)	22 (4)	79 (11)
海洋生産管理学科	45	180	53 (12)	45 (6)	47 (5)	54 (9)	199 (32)
海洋機械工学科	45	180	40 (8)	50 (4)	51 (1)	59 (1)	200 (14)
食品科学科	45	180	46 (14)	52 (19)	36 (13)	50 (19)	184 (65)
生物生産学科	30	120	30 (6)	28 (10)	41 (4)	38 (6)	137 (26)
合 計	185	740	189 (40)	195 (44)	192 (25)	223 (39)	799 (148)

専攻科学生数

課 程	定員	現員
船舶運航課程	50	24 (5)
船用機関課程		26 (1)
合 計	50	50 (6)

水産学研究科学生数

専 攻	専攻分野	定員	現員		
			1年次	2年次	合計
水産技術管理学	漁業技術管理学	10	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	機 関 工 学		4 (0)	5 (2)	9 (2)
水産資源管理 利用学	水産資源利用学	10	4 (0)	1 (1)	5 (1)
	水産資源管理学		2 (0)	3 (1)	5 (1)
合 計		20	11 (0)	9 (4)	20 (4)

学生支援体制

生活支援

● 学生生活

(1) 奨学制度

推薦・選考により次の奨学金が貸与されます。

◎独立行政法人日本学生支援機構（令和5年度入学者の例、月額）

第一種奨学金（無利子）

最高貸与月額は自宅通学は月額45,000円、自宅外通学は月額51,000円。その他月額20,000円から40,000円までの1万円単位の金額の中から選択できます。

第二種奨学金（有利子）

月額20,000円から120,000円までの1万円単位の金額の中から選択できます。

*採用には、入学後の在学採用のほか、「高校在学中の予約採用」による方法もあります。

*「給付型奨学金」については、本校は対象となっておりません。

◎独立行政法人日本学生支援機構のほかに地方公共団体、民間団体の奨学制度があります。

(2) 入学料免除

入学前1年以内に学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合で、入学料の納付が著しく困難であると認められる者については、本人の願い出により入学料の全部又は半額が免除される制度があります。

(3) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、成績優秀者として推薦された者等に対し、当該学期（6ヵ月）分の授業料について全額又は半額が免除される本校独自の制度があります。ただし、新入学生については、原則として入学年度の前学期分は免除の対象としません。

(4) 学生教育研究災害傷害保険

本校では正課及び課外活動・通学中における不慮の災害、事故等による学生の傷害に対する救済処置として、後援会の援助により公益財団法人日本国際教育支援協会が行っている当該保険に全員加入しています。この他に学生自治会の水産大学校傷害保障共済制度もあります。

(5) 学生寮

● 諸経費（令和5年4月現在）

寄宿料	男子寮 4,700円/月 女子寮 5,900円/月
入寮費（入寮時のみ）	12,000円
寮費（生活消耗品費等）	19,400円/年
給食業務費	8,490円/月
食費	約14,000円/月
光熱費（共用部分）	7,442円/月
NHK受信料・インターネット回線使用料	1,300円/月

※他、居室の電気使用料等があります。

● 選考方法

新入寮生の選考は、通学の困難度、家庭の経済状況等を考慮して行います。

● 入寮期間

入寮期間は原則2年間です。

● 寮生活

部屋は個室となっておりますが、食堂・風呂・洗濯室などは共用です。年間行事として、新入生歓迎行事、球技大会、餅つき大会等があります。

(6) アパート等の紹介

アパート等の紹介は水産大学校生活協同組合（TEL083-286-6500）が行っています。

賃貸料は、15,000円～45,000円程度です。

多くは単身用のワンルーム形式ですが、中には共同アパート形式（風呂・トイレ・台所など共用）もあります。

(7) 課外活動

本校では体育部系27団体、文化部系7団体のクラブ（他に同好会多数）があり、中国・四国地区及び下関・北九州地区などの大学と活発な活動を行っています。P38～39をご覧ください。

● 入学時の諸経費

入学料	282,000円
授業料	267,900円 半期：267,900円、年額：535,800円

※入学時に納付する入学料・授業料については、入学前の1年以内に学資負担者の死亡や風水害等の災害により納付が著しく困難であると認められる場合に、全額又は半額が免除される制度があります。

その他（任意含む）

教科書代等（約30,000円）※学科・購入内容等により異なります。

後援会費（60,000円4年分一括）概要：本校学生の教育、研究、研修、災害安全対策、就職活動等への援助。

学生自治会費等（40,000円4年分一括）内訳：学生自治会費、大学祭参加費、障害補償共済会費。

就職支援

● 高い就職率

本校の令和4年度卒業(本科)・修了(専攻科、研究科)生の就職率は、全体で約97%と高く、特に他の大学と比較してもその専門分野(水産関連分野)への就職率が高いことが特徴です。それは、次のような理由によるものと考えられます。

- (1) 昭和16年4月に本校の前身である「朝鮮総督府釜山高等水産学校」が設立されて以来、約81年間に1万人以上の卒業生を輩出し、そのほとんどが各界の第一線で活躍しているという実績が評価されています。
- (2) ほとんどの卒業生が採用実績のある企業に就職しているなど、企業との信頼関係が形成されており、不況時でも求人があり内定率も高くなっています。

【最近5年間の就職率(%)】

年 度	H30	R1	R2	R3	R4
全 体	98.3	98.4	97.1	97.7	97.0
水産関連分野	85.5	81.9	84.6	80.4	77.6

- (3) 入学後の1年生前学期に、理事、校長、各学科長等による講義「水産学概論」で水産関連分野の概要を学び(動機づけ教育)、3年次には、行政施策等、経験豊富な第一線で活躍されている水産庁職員等による講義「水産特論」で水産業の最新事情を学ぶことにより、水産業界に対する知識と就職にあたっての目的意識を養っています。また、各学科では豊富な実験・実習を擁する実学を重視した教育体制のため、就職後の評価も高く、離職率も低くなっています。
- (4) 学内に、学生部長を委員長とし、各学科長とクラス担当教員及び事務職員からなる「就職対策検討委員会」を設け、全学的に学生の就職支援にあたっています。
- (5) 講義棟入口に「就職支援室」を設け、いつでも全学科・学年の就職情報を検索・閲覧することができます。



● 充実した就職支援体制

本校では、卒業生が水産に関するあらゆる分野の第一線で活躍できるよう、学生課と各学科の就職担当者が親身になって就職指導を行なうとともに、次のような支援を行っています。

- (1) 就職ガイダンス
外部より就職支援の専門講師を招き、就職活動の流れや準備・心構えなどについて講演を行っています。また、就職活動において重要な自己分析に役立てるため、職務適性テストなどを行っています。
- (2) 就職活動に関する参考書籍の配布
就職情報社が発行する就業の動機付けと就職活動を見込んだ大学生活の送り方のアドバイスをまとめた入門的書籍を1年生全員に、就職活動のポイントをまとめた実践的書籍を3年生全員に配布しています。
- (3) 公務員試験対策講座
公務員採用試験の合格を目指す学生に対し、本校の水産庁勤務経験者や外部専門講師による、試験の内容や対策についての講演会を開催しています。また、希望する学生には外部専門機関での講座受講の紹介も行っています。
- (4) 企業訪問の実施と企業へのPR
求人企業の開拓を行うため、各学科の担当者や学生部職員が、本校学生の資質や就職実績等を説明するために企業・団体等を訪問しています。また、企業向けの情報誌を用いて本校のPRを行っています。
- (5) 就職関連情報の収集と提供
過去の就職状況や求人情報・企業案内といった就職関連情報を、就職支援室を中心に学生に提供しています。また、学生の進路状況の把握及び就職対策に対応するため、定期的に学生の進路状況及び内定状況を調査しています。

● 合同企業説明会

毎年、本格的な就職活動が始まる3月上旬頃に、過去に採用実績のある水産関連企業による合同企業説明会を開催しています。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりWeb開催とし、126の企業が参加しました。校内には学生がいつでも利用できるWeb面接用ブースを設置しています。



漁業・養殖業をはじめ、水産加工、水産流通、水産・海洋調査、資機材供給といった分野の企業から人事担当者を本校に招き、各企業の業務内容や採用状況等に関する説明会を行っています。この企業説明会は、参加学生数に対して企業数が多いのが特徴で、自分に合った企業を探すのももちろん、希望する企業に対するアピールの場として多くの学生が真剣に取り組んでいます。参加した学生からは、その後の就職活動にも大いに役立つと好評です。

《令和4年度の参加企業》

あじかん、イコーズ、一番食品、うおいち、大岡船舶、オーシャントランス、尾道造船、尾鷲物産、海外漁業協力財団、海星ムサシ、海洋建設、科学飼料研究所、カクサン食品、角上魚類ホールディングス、金子産業、かね貞、川崎汽船、川崎近海汽船、キスコフーズ、共栄マリン、共和水産、クラハシ、グローバルオーシャンディベロップメント、光電製作所、五栄土木、コスモ海洋、山九、サンヨーフーズ、JRC S、ジャパン・シーフーズ、商船三井テクノトレード、シヨクリュー、新来島どっく、神港魚類、新日本検定協会、水研、水産研究・教育機構、関ヶ原製作所、ゼニライトファイ、第一化成、大京魚類、ダイキンアプライドシステムズ、大水、大東魚類、ダイハツディーゼル、太平電業、太平洋フェリー、大洋エーアンドエフ、タカノブ食品、中央魚類、中部水産、中冷、津軽海峡フェリー、築地魚市場、常石造船、鶴見精機、東海澱粉、東京久栄、東洋漁業、東洋信号通信社、東洋冷蔵、西島製作所、内海造船、名古屋海産市場、名古屋港管理組合、ニシシヨウ産業、西日本海運、西原商会、ニチモウ、ニチレイロジグループ本社、日新興業、日東製網、日本海事検定協会、日本海洋事業、日本海洋レジャー安全・振興協会、日本クッカーリー、日本小型船舶検査機構、日本サルヴェージ、日本食品検査、日本食品分析センター、日本無線、日本郵船、ノースイ、博多港運、はごろもフーズ、八馬汽船、林兼産業、阪神内燃機工業、日阪製作所、広島魚市場、広島水産、フィード・ワン、深田サルベージ建設、福一漁業、福岡魚市場、ベニレイ、ホクモウ、北海道漁業協同組合連合会、前川製作所、マキタ、マリンフーズ、マルイチ産商、丸久、丸水札幌中央水産、マルト水産、マルハニチロ、ミキモト、美須賀海運、みなと山口合同新聞社、向島ドック、武蔵野、ムロオ、森松水産冷凍、ヤオコー、ヤマエグループホールディングス、山崎技研、山崎製パン、ヤヨイサンフーズ、ヤンマーエネルギーシステム、ヤンマーエンジニアリング、ユアーズ、郵船商事、横浜工作所、横浜冷凍、ヨシムラ、ヨンキウ

● 卒業生の進路状況 (令和5年3月31日現在)

注「進学者」は、専攻科、研究科、他大学の大学院等への進学者です。

本 科 専 攻 科 研 究 科	卒 業 者	進 学 者	就 職 希 望 者	就 職 内 定 者									進 路 未 定 者	
				水 産 関 連 分 野								水 産 関 連 分 野 以 外		合 計
				水 産 加 工	水 産 流 通	海 洋 調 査 開 発	供 給 等	漁 業 資 機 材	水 産 関 係 団 体	公 務 員	計			
本 科	水産流通経営学科	22	0	21	1	4	0	3	4	5	17	4	21	0
	海洋生産管理学科	42	29	12	1	3	0	5	0	0	9	1	10	2
	海洋機械工学科	47	29	17	0	0	0	12	0	0	12	3	15	2
	食 品 科 学 科	43	8	34	9	10	0	3	3	2	27	7	34	0
	生 物 生 産 学 科	32	6	26	2	1	3	6	3	5	20	6	26	0
	小 計	186	72	110	13	18	3	29	10	12	85	21	106	4
専 攻 科	専攻科船舶運航課程	23	0	23	0	5	1	1	5	4	16	7	23	0
	専攻科船用機関課程	25	0	25	1	7	4	1	2	2	17	8	25	0
	小 計	48	0	48	1	12	5	2	7	6	33	15	48	0
水 産 学 研 究 科	8	0	8	0	1	0	0	3	3	7	1	7	1	
合 計	242	72	166	14	31	8	31	20	21	125	37	161	5	

水産を通して〈モノ、ひと、社会〉を学ぶ



水産流通経営学科長

教授 青木 邦匡

主な専門教育科目紹介

流通経営に関する科目

漁業構造論、水産経営学、水産経営分析論、養殖経済論、水産統計データ解析、食料経済論、水産物市場構造論、水産物消費マーケティング論、水産流通加工ビジネス論、水産物ロジスティクス・システム論

水産業を支える諸要素に関する科目

水産政策史、水産行政論、水産制度論、漁業協同組合論、水産地域振興論、漁村漁港環境アメニティ論、水産労働論、水産人材育成論、海洋法、水産国際関係論、水産資源経営管理論、水産管理環境論

実習等

水産物フードシステム実習、海洋水産実習、水産経済・流通調査、水産フィールド調査演習、インターンシップ、卒業論文

▶ 学科で学ぶこと

水産流通経営学科は、水産をめぐる人々の暮らしがより豊かになり、活気にあふれた社会が実現することをめざしています。そのため経済学や経営学などの社会科学的なアプローチを用い、現場に根ざした実践的な研究と教育を行っています。

具体的には、水産物の生産・流通・消費の過程と、その背景になっている経済的・社会的な状況を把握するための経済、制度、政策、金融、地域振興、それに食文化などに関わる学問や分析技術を広く学びます。そのうえで、水産行政(公務員)、水産団体(漁協など)、漁業および水産加工・流通会社、水産関連企業などでリーダーとして、グローバルかつ地域に根ざした視点で企業や地域(行政)に関するデザインやマネージメントができる力を備えた人材を育てています。

Think Globally! Act Locally!

グローバルに考え、地域・世界で活躍!

漁業構造の変容

生産

資源管理
経営管理
地域振興
教育文化
水産政策・制度

消費の多様化

消費

消費動向
魚食文化
販売戦略
地産地消

多チャンネル化

加工・流通

グローバル化 システム 需給関係 市場構造 マーケティング フードシステム

授業の流れ

1・2年次では水産人としての教養を身につけるための共通教育科目とともに、水産経済学などの専門基礎科目を学びます。また、専門への入り口として水産物フードシステム実習や水産経済・流通調査(実習)を行い、水産の現場を実体験します。練習船による実習もあります。



海洋水産実習 無事実習を終えて一息



水産物フードシステム実習 調理の極意

3年次では専門性を深め、水産業の全分野にわたる水産社会科学を学びます。さらにこうして得た知識をふまえて再度、水産現場のフィールドワークを体験します。

4年次では、3年間に学んだ知識と体験をもとに個性を活かした卒業論文を作成します。



水産経済・流通調査 漁業者への聞き取り調査



卒論発表 発表者も聴講者も真剣!!

講座紹介

流通経営講座

当講座では国内外の水産物の生産、加工、流通のシステムを理解し、その現状に対し柔軟に対応できる総合力を養成します。そのため、水産物流通・消費の分析とマーケティング、漁業経営、漁業管理、水産政策、地域振興、水産人材の育成等、幅広い分野での教育と研究を行っています。

水産基礎講座

グローバル化や情報化が進む今日の状態に対応するためには、英語や情報学などとともに、社会の根底にある法則や機微を明らかにする歴史学や法学などの研究が必要です。当講座は、全学的にこうした基礎共通教育を担当するほか、水産業をめぐる文化や社会を研究し、本学科の専門にも寄与しています。

在校生紹介

3年次生 山口 伊歩樹
(長崎県立長崎鶴洋高等学校出身)



当学科は、主に水産物の流通や水産政策を学ぶ全国でも珍しい学科です。乗船実習や下関漁港への見学等、生産や流通の現場でのフィールドワークがあり、充実した実習を行います。また、普段の学生生活では、目の前の海や山など、自然豊かな地区に大学があるため、水産を学ぶには好条件です。また、入学前から水産の知識を付けておくと講義が身に入りやすく、より面白く感じられます。



水産経済・流通調査 養殖生簀の見学



水産経済・流通調査 魚市場(セリ実施中)の見学

在校生紹介

4年次生 崎田 幸村
(京都府立海洋高等学校出身)



水産流通経営学科では生産から販売までの水産業一連の流れを学ぶことができます。フィールドワーク調査演習で現場を自分の目で見るすることができます。漁業者の方と交流することもあり、コミュニケーション能力の向上や今の水産業が抱える課題を学ぶこともできます。乗船実習では普段話さない同級生とも話すきっかけができて学生生活を変えるきっかけになります。当学科に入学し水産について学んでみませんか？



水産経済・流通調査 大量のカニの水揚げ(市場見学にて)



水産物フードシステム実習 現場を見て考える漁船の経営

卒業後の資格

学位

学士(水産学)の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。また、学歴免許等の区分は、大学卒に相当すると人事院より認定されています。

大学院などへの入学資格

他大学の大学院および大学の専攻科(医学、歯学又は獣医学に関するものを除く。)への入学資格があります。

技術士試験

本校は、日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されています。平成17年度以降の入学生全員、技術士(科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格)の資格を取得するための第一次試験が免除となります。

先輩からのメッセージ

平成30年度卒業 向井 琢磨
(株式会社 極洋)

私は水産会社で寿司ネタの仕入れと販売に携わっております。商品=魚を一番美味しい状態でお客様に届けるべく、最適な漁獲・加工・流通・販売方法を日々模索しております。近年は円安の影響もあり、世界各国の魚価が高騰していますので、品質を保ちつつ販売価格を抑えることが求められます。本学科は水産流通における知識を幅広く学ぶことが出来ます。将来水産業界に進むうえで必ず役に立つ日が来ますので、何事も興味をもって学んでほしいです。



先輩からのメッセージ

平成24年度卒業 堀内 正志
(島根県東部農林水産振興センター)

私は島根県庁で水産技術職員として働いており、現在は東部農林水産センターにて水産業の振興や漁業者の所得向上に向けた支援や技術指導を行っています。本学科で学ぶ水産についての幅広い知識や実習で培った経験、そして学生生活の中で得た人脈は、現在の漁業と密に関わる業務においてとても役立っています。本学科での学びと学生生活は、今の自分を支える力であり財産です。そしてみなさんにとってもそうなってくれると信じています。



卒業後の進路

国家公務員	水産庁、国土交通省
地方公務員	北海道、東京都、広島県、島根県、山口県、長崎県、浜松市、行橋市、綾部市、志布志市、波佐見町
各種団体	全国漁業共済組合連合会、全国共済水産業協同組合連合会、全国さんま棒受網漁業協同組合、日本遠洋旋網漁業協同組合、県漁業協同組合連合会(香川県、長崎県、三重県、兵庫県、静岡県、徳島県)、県漁業協同組合(浜坂、山口県、林崎)、日本漁船保険組合、海外漁業協力財団、漁業共済組合(広島県、山口県)、秋田県栽培漁業協会
水産関連企業	日本水産、極洋、三菱食品、横浜冷凍、東洋冷蔵、ベニレイ、水研、松岡、尾鷲物産、林兼産業、第一水産、うおいち、中央魚類、長崎魚市、広島魚市場、福岡魚市場、下関唐戸魚市場、広島水産、トウショク、ヤマエ久野、ニチモウ、TASAKI、フジッコ、フジミツ、ランテック、みなと山口合同新聞、水土舎、ミキモト、大水、角上魚類、広島水産、郵船ロジスティクス
その他の企業	西日本旅客鉄道、イオン九州、積水ヒノマル、広島市信用金庫、ショクリュー、日本マクドナルド、日本郵便(株)、コスモス薬品
進学	本校の水産学研究科、九州大学、北海道大学、東京海洋大学、大阪市立大学、リーズ大学(英国)などの大学院

海という広大な3次元空間をグローバルな視点で 解き明かす実践科学



海洋生産管理学科長
博士(水産学)
教授 毛利 雅彦

主な専門教育科目紹介

海洋生産運航に関する科目

地文航海学、天文航海学、電子航海学、航海情報計測学、航行安全論、漁船運用学、漁船安全学、漁船システム論、漁業情報解析学

資源管理に関する科目

国際漁業管理学、資源解析学、水産音響学、資源管理漁具設計論、海洋物理学、海洋気象学、水産資源環境学、東シナ海・日本海資源論

実習等

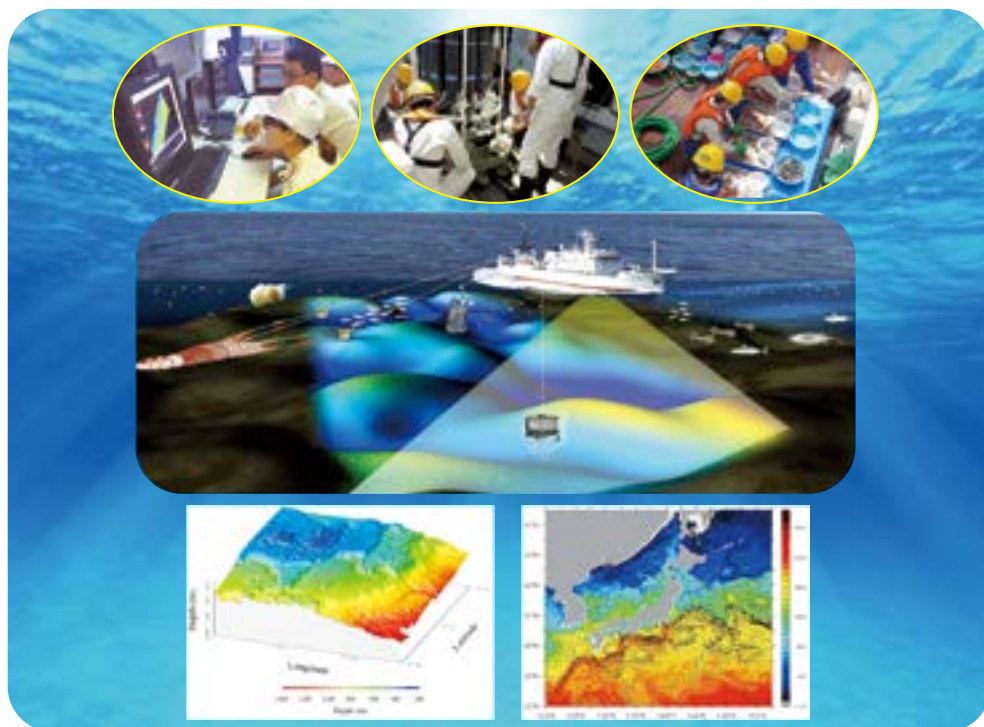
海技実習、海洋生産実習、漁業乗船実習、遠洋航海実習、漁業調査、漁船運用学実習、卒業論文、小型船舶実習、乗船実習

▶ 学科で学ぶこと

シーフードは今や食卓になくてはならない存在となっています。海の幸を海から食卓へ持続的に供給するためには、海洋や水産資源を科学的に解明するとともに世界規模での資源管理と環境に配慮した効率的な海洋生産活動を行うことが求められます。

海洋生産管理学科では、省エネ・省人・省力化、漁業情報の活用等による操業の効率化、漁船の安全性の確保や運航技術の高度化、新たな資源評価法や、生態系に調和した漁業・漁場の管理手法、資源への負荷を低減する漁具・漁法に関する教育・研究を行います。

これにより、練習船による実践的な教育を行いながら、専攻科に接続する5年一貫教育の下で水産物供給に関わる高度な知識を備えた海技士(航海)の育成と、漁業現場において持続的生産に向けた資源管理の実践を指導しうる人材を育成します。



海洋や水産資源を科学的に解明するための練習船を活用した実践教育

授業の流れ

1～3年次

講義、実験、実習



東シナ海上での漁業資源調査実習



水中カメラ映像による魚体長の測定

4年次

卒業論文
↓
就職、進学

(本校研究科、他大学大学院)



漁獲した魚の生態を調査・分析して、効率的な資源管理手法へつなげる研究

遠洋航海
↓
専攻科船舶運航課程
(1年間)



練習船での実践的な船舶運航実習

講座紹介

海洋生産運航学講座

水産物の安定供給を推進する上で欠かせない海洋・資源調査、漁労、水産物の運搬など洋上での船舶による活動に関し、省エネ等環境負荷の低減や安全性の向上とともに、効率化、高度化のための運航、管理技術についての教育・研究を行います。

また専攻科との接続により水産に関する高度な知識、技術を有した海技士（航海）を育成します。

資源管理学講座

持続的生産には、漁獲対象となる生物のみならず生態系として管理が重要であるとの認識を踏まえつつ、資源及び海洋環境の把握、生態系への影響に配慮した漁具の開発、資源や環境の管理手法についての教育・研究を行います。

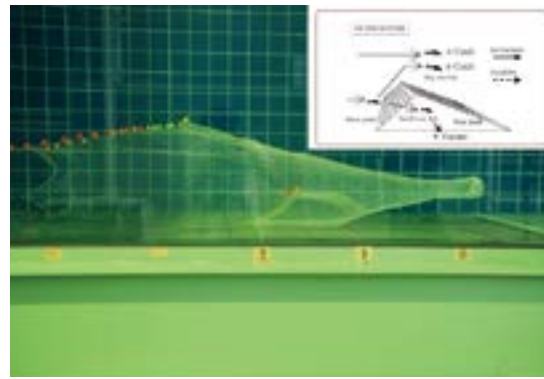
在校生紹介

3年次生 青井 遥哉
(滋賀県立東大津高等学校出身)

私は最初、航海士に興味があり本学科を志望しました。入学して、水産資源や漁業、海洋について勉強をしていく中で、私は水産業が抱えている問題を解決することの重要性を学びました。そうした中で次第に航海士以外にも興味が湧き、現在は進学に向けて勉強しています。本学科には、練習船を用いた乗船実習の他にも多彩な実験・実習が数多くあります。そのような実践的な授業を通して、素敵な仲間と貴重な経験を積むこともできます！



練習船での観測機器を使用した海洋環境調査実習



効率的な新しい漁具の開発研究

在校生紹介

4年次生 渡辺 史江
(徳島県立徳島科学技術高等学校出身)

私は島国である日本の水産業を支える航海士や技術士になりたいと考え、本学科を志望しました。本学科では、操船技術だけでなく、海洋環境や資源管理に関わる幅広い知識を学ぶことが出来ます。近年では漁業就業者数が減少する中、本学科ではICTやIoTを活用した操業の効率化や省人化、及び資源管理に役立つ研究にも力を入れており、水産業の未来に生きる技術についても学ぶことが出来ます。水産大学校で一緒に学び、日本の水産業を支えませんか？



音響計測器による生物資源解析



マグロ延縄実習時における体長測定

卒業後の資格

学位

学士（水産学）の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。また、学歴免許等の区分は、大学卒に相当すると人事院より認定されています。

大学院などへの入学資格

他大学の大学院および大学の専攻科（医学、歯学又は獣医学に関するものを除く。）への入学資格があります。

技術士試験

本校は、日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されています。平成17年度以降の入学生全員、技術士（科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格）の資格を取得するための第一次試験が免除となります。

教職員免許状

- 専門分野の社会的経験を経て、特別免許状を取得できます。
- 三級海技士の海技免許を有し、5年以上船舶に関し実地経験を有する者は中学校二種（職業）、高等学校一種（商船）の免許状を取得できます。

先輩からのメッセージ

平成30年度卒業 村上 駿平

（青森市役所 農林水産部 水産振興センター勤務）



私は、配属先の水産振興センターで地元漁業者のためにホタテガイの調査業務やマナモコ、ワカメ等の種苗生産業務を行っています。生き物の特性上、年ごとに採卵時期や成長の仕方が違うため、毎年苦勞していますが適切な管理をするため日々、経験を積んでいます。そうして苦勞しながら育てた種苗を放流、配布する時に漁業者に喜んでもらえる、この仕事を選んで良かったと感じます。将来水産業に関わる仕事への就職を考えている人はぜひ水産大学校で学んでみてはいかがでしょうか。

先輩からのメッセージ

令和元年度卒業 牧 加奈子

（水産庁 増殖推進部 栽培養殖課勤務）



私は、配属先で栽培漁業や養殖業などに関する施策の立案等の業務に携わっています。水産大学校では、水産資源や船舶に関するだけでなく、水産物の流通や水産生物に関する事など、「水産」に関わる事について幅広く知識を得ることができました。日々の授業で学んだ水産に関する知識は、水産に関する様々な知識が必要な今の仕事に活かされており、2年次、3年次での乗船実習は時に過酷でしたが、学んだチームワークは組織で働く上でとても役に立っています。みなさんも水産大学校で仲間達と一緒に「水産」について幅広く学んでみませんか？

卒業後の進路

青字は、本科を卒業後専攻科へ進学した場合の就職先です。

国家公務員 水産庁、国土交通省

地方公務員 北海道、福岡県、堺市、青森市、海津町、**山形県**、**福島県**、**京都府**、**三重県**、**和歌山県**、**鳥取県**、**島根県**、**山口県**、**高知県**、**佐賀県**、**大分県**

各種団体 全国共済水産業協同組合連合会、農林水産消費安全技術センター、兵庫県漁業協同組合連合会、福井県漁業協同組合連合会、香川県漁業協同組合連合会、日本遠洋旋網漁業協同組合、山口県漁業協同組合、**日本海事検定協会**、新日本検定協会、**日本小型船舶検査機構**、**水産大学校**、**広島大学**、**三重大学**、水産研究・教育機構、全漁連（全国漁業組合連合会）

水産関連企業 日本水産、マルハニチロ、日本かつお・まぐろ浦業協同、ニチレイ、ニチモウ、西日本ニチモウ、日東製網、菊谷茂吉商店、ホクモウ、古野電気、日本無線、光電製作所、東洋信号通信社、ゼニライトプイ、横浜冷凍、大水、大東魚類、名古屋海産市場、大京魚類、福岡中央魚市場、仙都魚類、水研、魚力、うおいち、鯉平、フィードワン、SNC、タカミヤ、海洋先端技術研究所、白地水産、金子産業、シモセン、常洋水産、中央魚類、茨城水産、**日本郵船**、**商船三井**、**川崎汽船**、**日本海洋事業**、**大洋エーアンドエフ**、**共同船舶**、**阪九フェリー**、**九州郵船**、**太平洋フェリー**、**新日本海フェリー**、**津軽海暇フェリー**

その他の企業 神戸海事検定、**飯野海運**、**NSユナイテッド海運**、**ケイラインローローバルクシップマネージメント**、**出光タンカー**、**ENEOSオーシャン**、**鹿児島船舶**

進学 本校の専攻科・水産学研究科、北海道大学、東京大学、東京海洋大学、名古屋大学、福井県立大学、京都大学、大阪市立大学、神戸大学、愛媛大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、琉球大学の大学院

海洋の明日を切り拓く、マリンエンジニアリング



海洋機械工学科長
博士(工学)
教授 太田 博光

主な専門教育科目紹介

船用機関に関する科目

船用機関学概論、熱力学、伝熱工学、内燃機関、水産冷凍工学、蒸気工学、機関システム学、海洋エネルギー工学、船用機械実験

海洋機械に関する科目

工業数学、工業力学、材料力学、流体力学、機械力学、電気工学、材料と機械工作法、制御工学、海洋機械設計、電気・電子機器、機械制御学、海洋機械実験

実習等

海技実習、海洋機械実習、遠洋航海実習、卒業論文

▶ 学科で学ぶこと

水産の持続的な発展のためには、環境保全と漁業の両立、安全な漁船等の運航、漁業従事者の労働環境の改善、水産物の流過程での品質の保持など、様々な課題への対応が求められており、機械技術がこれらの解決に大きな役割を担っています。

海洋機械工学科では、1)船舶のエンジンやエネルギー機器類の運転・保守、2)水産業への先端工学の導入、3)海洋環境の負荷低減、の3つを柱として、水産業の課題解決を機械工学の分野から支援するための教育・研究を、練習船による実践的な教育と組み合わせて行っています。

これにより、水産業の基盤を支える人材を育成するとともに、専攻科と連携した5年一貫教育により、水産に関わる高度な知識を備えた海技士(機関)を育成します。



授業の流れ

1～3年次

講義、実験、実習



ボイラ蒸気プラント運転実習



2年生での乗船実習

4年次

卒業論文
↓
就職、進学

(本校研究科、他大学大学院)



エンジンから排出される大気汚染物質の分析

遠洋航海

(1年間)

専攻科船用機関課程



練習船での実践的な船用機関実習

講座紹介

船用機関学講座

高品質な水産物の供給を維持する上で重要な漁船、運搬船などのエンジンや冷凍設備に関し、安全性、信頼性の向上、環境負荷の低減に向けた技術開発のほか、それらの管理技術についての教育・研究を行います。また専攻科との連携により水産に関する高度な知識、技術を有した海技士（機関）を育成します。

海洋機械学講座

水産業への先端機械工学の導入により、漁業、流通、加工といった漁業に関わる各プロセスの省力化・省エネ化・低コスト化を実現する新技術の開発についての研究・教育を行います。具体的には、海洋機械の診断技術、海洋ロボット、環境適応型機械システムの開発や、水産現場への情報通信技術の導入を進めています。

在校生紹介

3年次生 三島 広也
(岐阜県立加納高等学校出身)



海のない県で生まれ育った私にとって海は憧れであり、また物理学や工学といった分野にも興味を持っていたことから海洋機械工学科を志望しました。1年次から4年次にかけて理論的な講義だけではなく、海技実習・乗船実習などの実技的な講義が数多くあるのが本学科の特徴です。そのため水産や機械に関する広範な知識と実践的な技術の両方を身に付けることができ、将来の選択肢を広げることができます。海や船、機械などに少しでも興味のある方は本学科でそれらについて学ばれてはいかがでしょうか。



1年生での海技実習



冷凍システム(船用冷凍コンテナ)の実験

在校生紹介

4年次生 満 広
(鹿児島県立大島高等学校出身)



奄美大島で生まれ育った私にとって海や船はとても身近な存在であり、将来はそういった分野に携わってみたいと思い海洋機械工学科を志望しました。本学科では、海技実習や乗船実習等の実技・実習が多く実施されており、座学では学ぶことの難しい実際の現場を在学中に多く体験することができます。具体的な将来を見据えた上で専門性の高い講義を受けることができます。実習等の活動を通して多くの友人ができ、コロナ禍が明けたことで環境が変わった中、充実した学生生活を送ることができています。



船用エンジンの性能解析



4年生での卒業論文の例(海洋ロボット)

卒業後の資格

学位

学士（水産学）の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。また、学歴免許等の区分は、大学卒に相当すると人事院より認定されています。

大学院などへの入学資格

他大学の大学院および大学の専攻科（医学、歯学又は獣医学に関するものを除く。）への入学資格があります。

技術士試験

本校は、日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されています。平成17年度以降の入学生全員、技術士（科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格）の資格を取得するための第一次試験が免除となります。

教職員免許状

- (1) 専門分野の社会的経験を経て、特別免許状を取得できます。
- (2) 三級海技士の海技免状を有し、5年以上船舶に関し実地経験を有する者は中学校二種（職業）、高等学校一種（商船）の免許状を取得できます。

先輩からのメッセージ

平成26年度卒業 **日下 翔大**
(ヤンマーエネルギーシステム株式会社勤務)

私は、病院・商業施設・工場等に納入されているコージェネレーションシステム設備（常用発電機）及び停電・災害の際に活躍する非常用発電機のメンテナンスの業務を行っています。本科で学んだ経験は現在の仕事に大いに役立っています。

本科の強みは、乗船実習をはじめとした実学重視のカリキュラムが組み立てられているところです。ぜひ、エンジンや機械に興味のある方は、海洋機械工学科で学んでみませんか？



先輩からのメッセージ

平成13年度卒業 **福田 喜伸**
(株式会社前川製作所勤務)

新鮮な海産物を消費者に届けるための低温流通を支える産業用冷凍機メーカーで仕事をしています。海産物の種類や加工方法、物流によって様々な冷蔵・冷凍の技術が求められます。海洋機械工学科では実習や実験など実践的な講義が多く、得た知識や経験が大きく役立っています。水産資源は環境問題などにより今よりもっと重要になっていくと思います。世界の水産資源を支える一歩として水産大学校で学ばれてみてはいかがでしょうか。



卒業後の進路

青字は、本科を卒業後専攻科へ進学した場合の就職先です。

国家公務員	水産庁、気象庁
地方公務員	奈良県、大分県、千葉県、鹿児島県
各種団体	日本小型船舶検査機構、日本かつお・まぐろ漁業協同組合、日本漁船保険組合、長崎大学、東京海洋大学、水産研究・教育機構、海技教育機構、鹿児島大学、海洋水産システム協会
水産関連企業	大洋エーアンドエフ、内海造船、旭洋造船、尾道造船、神田造船所、日新興業、ヤンマーエンジニアリング、ヤンマーエネルギーシステム、山九、東亜建設工業、ダイキンアプライドシステムズ、大晃機械工業、JRCS、五栄土木、朝日工業社、神戸発動機、西島製作所、新潟原動機、日阪製作所、前川製作所、三菱ケミカル、郵船商事、イコース、ノダック、福岡造船、マキタ、大島造船、ダイハツディーゼル、ナカシマプロペラ、三井E&S造船、共同船舶、日本郵船、商船三井、川崎汽船、グローバルオーシャンディベロップメント、八馬汽船、商船三井フェリー、鹿児島船舶、美須賀海運、ダイハツディーゼル、商船三井テクノトレード、阪九フェリー、太平洋フェリー、名門大洋フェリー、九州郵船、共栄マリン、ニッスイマリン工業、栗林マリタイム、新日本海フェリー、阪神内燃機工業、明治海運、川崎近海汽船、津軽海峡フェリー、JR九州高速船、関ヶ原製作所、日本サルヴェージ、三徳船舶、石崎汽船、松山・小倉フェリー、東栄リーファーライン、フェリーさんふらわあ、ジャンボフェリー、三井E&Sマシナリー など
その他の企業	東邦ガスエンジニアリング、ヤンマー農機製造、ブリヂストンサイクル、日本設備工業、飯野海運、NSユナイテッド海運、大洋日本汽船、日本クルーズ客船、NTTワールドエンジニアリングマリン、ケイラインローローバルクシップマネジメント、上野トランステック、菅原汽船、第一中央汽船、JXオーシャン、昭和日タンマリタイム、泉汽船、三原汽船、海洋技術開発 など
進学	本校の専攻科・水産学研究科、九州大学、九州工業大学、金沢大学、三重大学などの大学院

食は文化と科学の結晶。さあ、食品を研究しよう



食品科学科長
博士(農学)
教授 宮崎 泰幸

主な専門教育科目紹介

食品安全利用に関する科目

応用微生物学、食品衛生学、HACCP、食品表示、遺伝子工学、食品保蔵学、食品加工学、水産伝統食品科学

食品機能に関する科目

食品機能学、食品化学、食品分析、栄養生理学、生物化学、酵素化学、海洋天然物化学、有機化学、分析化学、食品生命科学

実習等

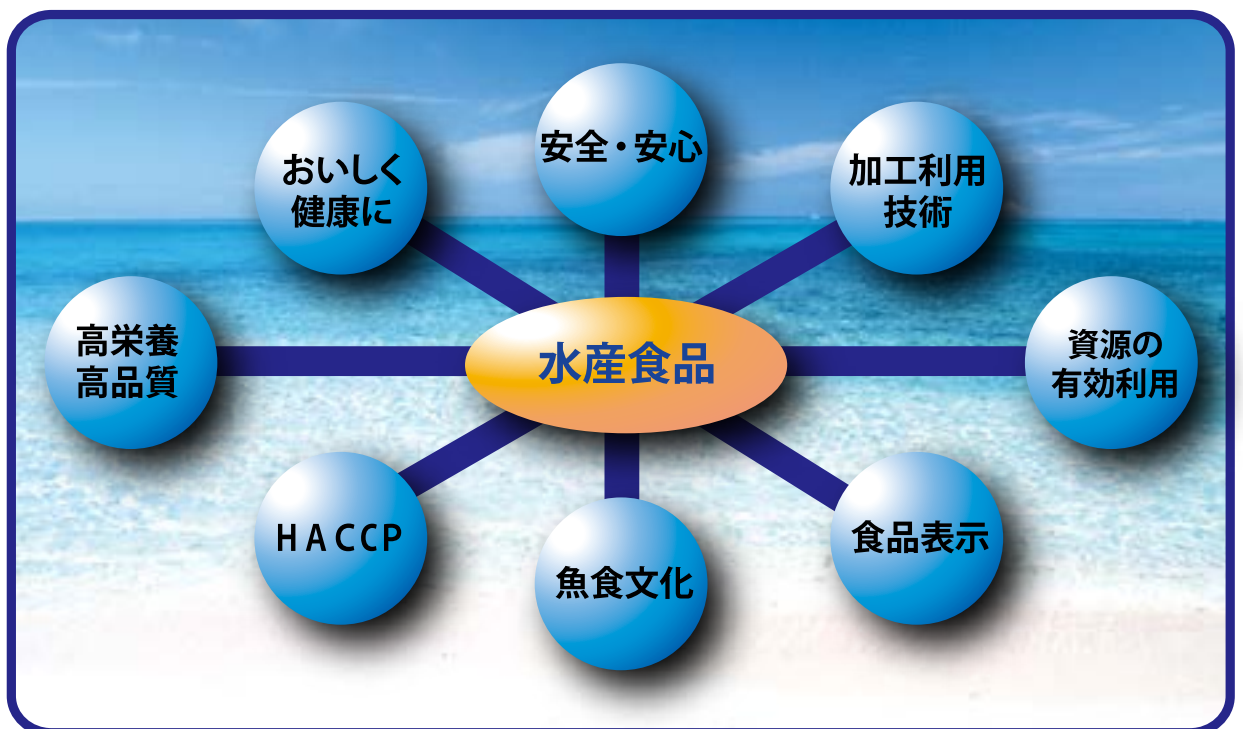
食品加工調査、食品製造学実習、洋上鮮度管理実習(乗船実習)、セミナー、卒業論文

▶ 学科で学ぶこと

食は科学と文化が融合する世界です。私たちの食生活は歴史のなかで培われた科学と文化に支えられています。なかでも水産物についての日本人の感性と知識は比類なきものです。食品科学科に入って、この豊饒な世界の扉を開いてみませんか。

食品科学科では、生物化学や有機化学等の基礎教育を行うとともに、我が国の魚食文化に対する理解を深めつつ、衛生と鮮度管理技術、少量多品種の国内水産物の加工利用技術、食品表示等についての教育・研究を行います。

これにより、生産から消費までの流通全体において、最も有効な水産物利用と産地における高付加価値化を推進するとともに、適切な食品表示を行う能力を有する人材を育成します。



授業の流れ

1年次には教養教育科目や基礎科目を学び、2年次からは専門科目を学ぶようになります。そして4年次には各研究室で、最先端の研究を行いながら卒業論文を作成・発表します。



細菌の遺伝子を調べています



洋上鮮度管理実習（乗船実習）の一コマ

このように、4年間で水産食品の幅広い教養や基本的な知識を身につけ、さらに水産加工技術、保存技術、水産物の成分化学の基礎、食品の安全・衛生に関する知識、食と健康に関する知識、環境に関する知識などの高度な専門学を習得します。



ここちよい緊張!!
卒業研究論文発表会



本格的な食品成分分析機器を使った機器分析実験の一コマ

講座紹介

食品安全利用学講座

食品ロスを減らして安全で安心な水産食品を製造・開発することを目指して、鮮度保持技術や凍結・解凍方法、混獲魚や形の揃わない魚などの低・未利用水産物を原料とした食品や新しい発酵食品製造、養殖場の薬剤耐性菌の遺伝子解明やフグ毒などについての教育・研究を行います。

食品機能学講座

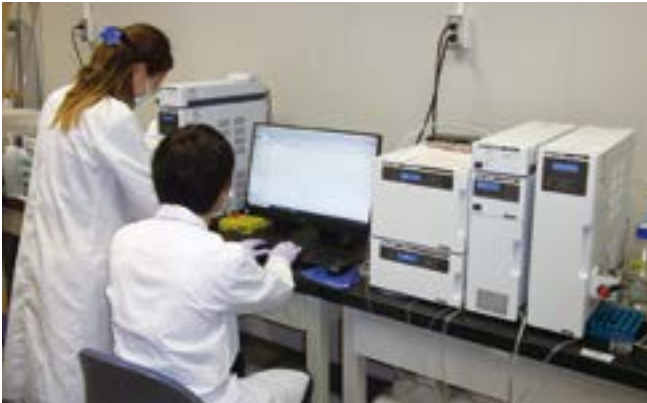
水産食品を科学的に理解し、美味しさや生体調節機能を見出し、活用するための教育・研究を行います。EPA・DHA、セレン化合物、ポリフェノールなどの有用成分、におい成分に加えて、アレルギーや水銀、ヒ素、生物毒素など健康リスク因子を研究対象として、より健康的で、より美味しい水産食品を開発すること、食に伴うリスクを軽減または除去することを目指します。

在校生紹介

3年次生 高橋 杏弥
(神戸大学附属中等教育学校出身)



私は将来的に魚食の普及に携わりたいと考えたため、本学科を志望しました。まず、本学科は食品加工実習や乗船実習、数多くの実験等、豊富な実践の機会があることが魅力です。また、水産食品を中心に食品全般の種々の知識を身に付けることができます。私自身も本校で学ぶ中で水産物、水産食品の魅力に触れ、これらについて学ぶことの奥深さを実感している所です。魚や食に興味のある方、本学科で充実した学生生活を送りましょう！



食中毒の原因物質を分析し、その解決方法について研究します。



海藻のアレルギー予防効果を調べています。

在校生紹介

4年次生 田中 直之
(高岡龍谷高等学校出身)



私は魚が大好きだったので、この学校を選びました。先生方や先輩方が、魚のスペシャリストばかりですので、疑問に思ったことや挑戦してみたいことがあれば、何でも聞いて実践できます。教室で学ぶのみでなく、自分で魚を釣って調理することも珍しくありません。親しい先生から魚のさばき方や寿司の握り方を教えて頂くなど貴重な機会にも恵まれました。海や魚が好きで食べることに興味のある人にとってもオススメできる大学です！



実際に練習船に乗り込んで、漁獲直後からの鮮度管理について勉強します。 付属食品工場で、原料魚の加工、製品づくり、衛生管理等について学びます。



卒業後の資格

学位

学士(水産学)の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。また、学歴免許等の区分は、大学卒に相当すると人事院より認定されています。

大学院などへの入学資格

他大学の大学院および大学の専攻科(医学、歯学又は獣医学に関するものを除く。)への入学資格があります。

技術士試験

本校は、日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されています。平成17年度以降の入学生全員、技術士(科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格)の資格を取得するための第一次試験が免除となります。

食品衛生監視員・食品衛生管理者など

食品科学科の卒業者は、食品衛生法に基づく食品衛生監視員および食品衛生管理者になることができます。また、危険物取扱者(甲種)の受験資格があります。加えて、在学中に HACCP 管理者や中級食品表示診断士の資格を取得することも可能です。

先輩からのメッセージ

令和2年度卒業 堀田 陸斗
(株式会社ニチレイフレッシュ勤務)

私は国内外から水産物を調達し、国内の飲食店、量販店、食品メーカー等に素材や加工品を卸す業務に携わっております。水産大学校へは食品関係の仕事に就きたいというおぼろげな思いで進学しました。しかし、4年間水産食品業界の最前線に立って学ぶうちに「日本の水産業を盛り上げ、水産物をより好条件で販売できる場を作りたい」という目標を持つことができました。今は目標達成のために邁進しています。皆さんも食品科学科で、水産や食品に関する視野を広げ、知識を深めてみませんか？



先輩からのメッセージ

令和2年度卒業 大杉 優希(旧姓 林田)
(厚生労働省 食品監視課勤務)

日本は国内で消費する食品の多くを輸入しており、私は輸入食品の安全を守る第一線で仕事をしています。その安全を守るには様々な知識・経験が必要です。食品科学科は座学だけでなく実験、工場実習、乗船実習など実学が充実しています。また、水産だけでなく食品について幅広く学ぶことができます。実際、水大で得た知識・経験がいまの仕事に活かしています。ぜひ皆さんも水産大学校で食品について学んでみてください。



卒業後の進路

国家公務員	水産庁、食品衛生監視員(厚生労働省)など
地方公務員	北海道、石川県、兵庫県、香川県、大分県、湯沢町、東京都港区、焼津市、白杵市、広島市 など
各種団体	日本食品分析センター、日本食品検査、食品環境検査協会、日本海事検定協会、東京動物園協会、とくしま生協、鹿児島県東町漁協、JA鹿児島、全酪連、垂水市漁協 など
水産関連企業	東洋水産、日本水産、マルハニチロ、極洋、はごろもフーズ、ニチレイフレッシュ、紀文、理研ビタミン、林兼産業、ニチモウ、池田糖化工業、一番食品、伊那食品工業、宝幸、ヤヨイサンフーズ、中冷、あじかん、シマヤ、ヤマキ、やまやコミュニケーションズ、白子、鈴廣蒲鉾本店、カネテツデリカフーズ、ヤマサちくわ、フジミツ、カクサン食品、中村角、田中食品、サンヨー堂、クニヒロ、宮嶋醤油、ますやみそ、横浜冷凍、日水物流、ニチレイロジグループ、ショクリュー、ヤマエ久野、西原商会、クラレイ、ベニレイ、築地魚市場、広島魚市場、九州魚市、高田魚市場、大水、うおいち、広島水産、黒瀬水産、キュービー、ケンコーマヨネーズ、山崎製パン、グリコマニューファクチャリングジャパン、イズミ、サンヨーフーズ、武蔵野、セブンイレブン・ジャパン、プレナス、BMLフード・サイエンス、日本ハム食品、三井食品 など
その他の企業	森永エンゼルデザート、広島森永乳業、東ハト、日本KFCホールディングス、ヤクルトヘルスフーズ、ジャパンファーム、たらみ、フランソア、伊藤園 など
進学	本校の水産学研究科、北海道大学・東京大学・東京海洋大学・九州大学・鹿児島大学などの大学院、奈良先端科学技術大学院大学 など

生物の生きる力と創造力あふれる技術で、
豊かな海を作ろう！



生物生産学科長
博士（農学）
教授 竹下 直彦

主な専門教育科目紹介

生物環境に関する科目

水産植物学、水産動物学、浮遊生物学、水族生理学、魚類行動学、
水産植物増殖学、水産動物増殖学、魚類増殖学、水産環境学、藻場・
干潟保全生態学

資源増殖に関する科目

魚類学、水族栄養学、水族遺伝育種学、水族病原微生物学、魚病診
断治療学、陸水学、水族組織学、水族防疫学、水産遺伝資源学

実習等

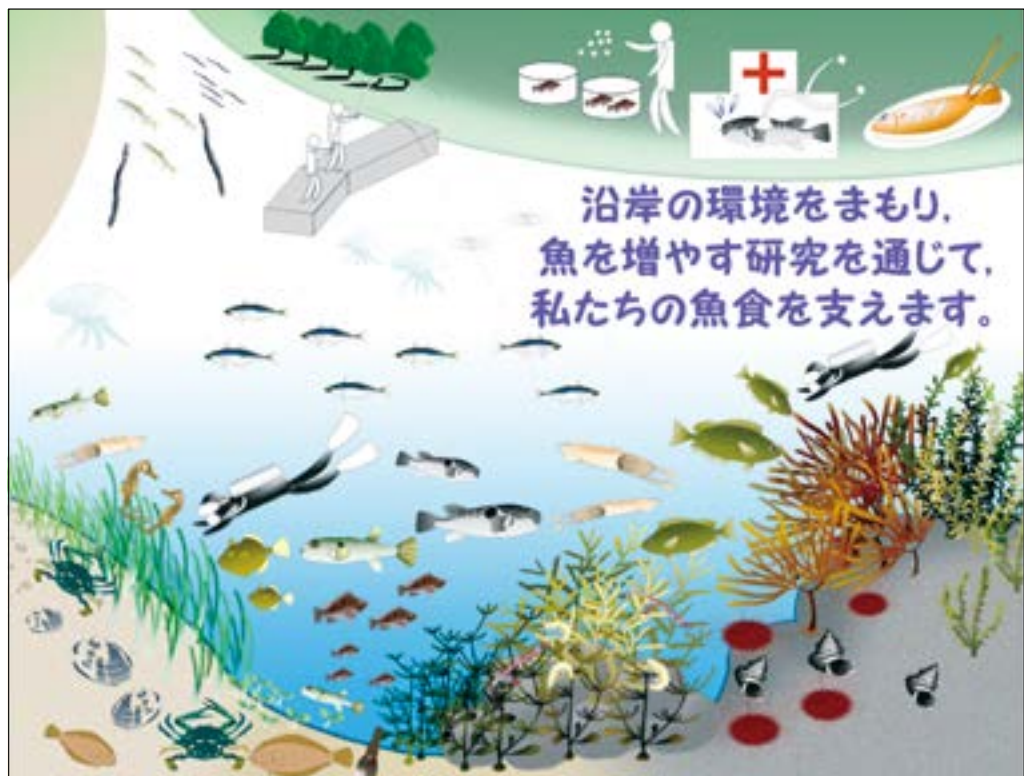
増養殖基礎実習、沿岸生態系保全実習、陸水生態系保全実習、増養
殖実習、海洋学および漁業実習、水産施設調査、卒業論文

▶ 学科で学ぶこと

私たちの豊かな食は、周りの海に支えられてきたと言っても過言ではありません。しかし、近年の飛躍的な経済発展とともに、水域の環境は悪化し、我が国のみならず地球規模での環境問題や食糧問題が取りざたされてきています。

生物生産学科では、水域の環境保全、生物資源増大、および水産増養殖に係る基礎的な学理と最新の知識、および現場に即した技術の教育・研究を行います。

これにより、持続的生産を実現する上で必要な生態系の管理や、最新の増養殖技術に関する知識を持ち、増養殖や漁業生産等の水産現場に即した技術の導入に指導的な役割を担い、高い問題解決能力を発揮できる人材を育成します。



授業の流れ

1年次から実習と専門教育を取り入れ、これらを通じて増養殖に関する教育を行います。1年次では社会的素養を養うために、自然・人文社会科学系及び水産科学系の基礎科目を履修しますが、専門科目と実験も開講されます。



増養殖基礎実習(1年)
干潟で生物調査を行っています



沿岸生態系保全実習(2年)
アマモ場で生物調査を行っています

2～3年次には、水産生物・増殖・環境の多彩な専門科目を履修するとともに、理論の理解を深める実験が平行して開講されます。実習は1年次から始まり、練習船を利用した実習など、多彩な内容です。

4年次には、最新の研究テーマについて個別指導を受け、卒業論文をまとめます。



海洋学および漁業実習(3年)
いろいろな魚種が採捕されます



ポスター形式の卒論発表です

講座紹介

生物環境学講座

海域環境とその生態系を守りながら、持続的な生産を行う「里海」の保全に向け、水産資源に適した海域環境の改善と水産資源の維持・増大のための方策を解明していくため、水産生物の生理・生態、水産動植物との相互作用や再生産及び赤潮の消長の仕組み等についての教育・研究を行います。

資源増殖学講座

水産物の安定供給において増殖及び養殖の重要性が増していますが、その安定生産のためには、耐病性の高い種苗の確保や遺伝的多様性に配慮した放流が必要です。本講座ではこのような水産生物の生体防衛能や遺伝特性等についての教育・研究を行います。

在校生紹介

2年次生 上田 魁士
(横浜創学館高等学校出身)



私は生物が好きで本学科を志望しました。授業では、1年次は水産について幅広い内容を、年次が上がるにつれて専門性の高い内容を学ぶことができます。実習も豊富で、水産の現場に必要な知識や技術を習得できます。それらを通して「好きなことをどう社会に役立てるか」という視点で物事を捉えられるようになりました。また、旬の魚や山菜をとり、波の音を聴きながら仲間と語り合う、自然豊かなキャンパスライフは唯一無二の経験だと感じています。



増養殖実習(3年)
コイの産卵巣材を設置しています



巣材に産みつけられたコイの卵です

在校生紹介

3年次生 渡邊 千夏
(大分県立臼杵高等学校出身)



私は昔から海の生物に興味があり、海の動植物について詳しく学べる生物生産学科を志望しました。生物生産学科では、さまざまな実習があるため、座学で得た知識を実際に海や湖に出て経験し、身につけることができます。昨年はコロナの影響で授業が遠隔となるが多かったですが、対面授業や実習場での実習も再開し、充実した学生生活を送ることができています。海洋生物に少しでも興味がある方はぜひ生物生産学科で学んでみませんか。



沿岸生態系保全実習(2年)
アマモ場でライン調査を行っています



陸水生態系保全実習(2年)
河川で生物調査を行っています

卒業後の資格

学位

学士（水産学）の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。また、学歴免許等の区分は、大学卒に相当すると人事院より認定されています。

大学院などへの入学資格

他大学の大学院および大学の専攻科（医学、歯学又は獣医学に関するものを除く。）への入学資格があります。

技術士試験

本校は、日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されています。平成17年度以降の入学生全員、技術士（科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格）の資格を取得するための第一次試験が免除となります。

先輩からのメッセージ

令和2年度卒業 **楠永 楓**
(香川県農政水産部水産課勤務)

現在、私は行政職として、香川県の水産業の発展に携わっています。水産大学校では、水産生物の生態や増養殖技術だけでなく、水産物の流通や船舶のこと等幅広く水産を学ぶことができました。水産学校での経験は、様々な水産分野の知識が必要な今の仕事に活かされていると感じています。また、ここで出会った友達、好きなものが同じな上、実習等の苦楽を共にした仲間であるため、卒業した今でも連絡を取り合っています。皆さんも水産大学校で素敵な仲間たちと幅広く水産学を学んでみませんか。



先輩からのメッセージ

平成29年度卒業 **小役丸 隼人**
(国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 千歳さけます事業所勤務)

私は、さけます類のふ化放流に関する技術開発や調査業務に携わっています。実際の水産の現場では、自らの専門分野にとどまらない幅広い知識と経験をもとに、業務に取り組む必要が出てきます。そのような際に、水産大学校で学んだ様々な分野の知識や実習での経験が役立っています。進路に悩んでいるそのあなた！海や生物が好きな方にはぴったりの環境である本校で、仲間達と切磋琢磨し、自らの思い描く将来に向かって挑戦してみませんか？



卒業後の進路

国家公務員	水産庁
地方公務員	北海道、栃木県、東京都、静岡県、長野県、愛知県、富山県、石川県、福井県、和歌山県、岡山県、広島県、島根県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県、長崎県、大分県、沖縄県、函館市、姫路市、下関市、北九州市、熊本市 など
各種団体	海洋生物環境研究所、水産土木建設技術センター、山口県栽培漁業公社、宮崎県栽培漁業協会、岐阜県種苗センター、全国共済水産業協同組合連合会、広島県漁業共済組合、宮崎県漁業信用基金協会、広島市水産振興協会、各県漁業協同組合連合会(千葉、静岡、愛知、三重、兵庫、香川、熊本)、漁業協同組合(山口県、福岡県、堅田、相模川第二、榎野川) など
水産関連企業	マルハニチロ、日本水産、林兼産業、金子産業、極洋、ニチモウ、東洋水産、山崎技研、ヨンキョウ、水研、築地魚市場、うおいち、福岡魚市場、大東魚類、仙都魚類、中部水産、神港魚類、かね貞、大川水産、マリンフーズ、ユタカフーズ、大冷、角上魚類、マルイチ産商、ショクリュー、ヤマエ久野、横浜冷凍、東海澱粉、魚喜、くらコーポレーション、魚力、東京一番フーズ、坂本飼料、日本配合飼料、協同飼料、中部飼料、フィード・ワン、あすかアニマルヘルス、神畑養魚、海洋建設、日本リーフ、東亜建設工業、ミキモト、横浜・八景島シーパラダイス、鳥羽水族館、海響館、みなと山口合同新聞社 など
その他の企業	J/A全農長崎、理化学研究所、オリックス水族館、アワーズ など
進学	本校の水産学研究所、北海道大学、東北大学、東京海洋大学、千葉大学、福井県立大学、名古屋大学、三重大学、京都大学、広島大学、宮崎大学、愛媛大学の大学院、奈良先端科学技術大学院大学 など

目指せ！世界で活躍する船のスペシャリスト

▶ 専攻科で学ぶこと

水産、船舶運航、船用機関に関する精深な専門的学識と高度な技術を習得します。

本校の海洋生産管理学科または海洋機械工学科で指定された学科目を履修し卒業した者、ならびにこれと同等以上の学力技能があると認められた者を対象として、修業年限1年の船舶運航課程ならびに船用機関課程の専攻科が設けられています。

練習船による乗船実習や講義を通して、新時代の水産界を担う漁業生産技術者・船舶運航技術者ならびに水産関連技術者・船用機関技術者としての基礎を培います。



ホーチミン港に向け、サイゴン川を航行中！



練習船での実践的な機関実習

在校生紹介

専攻科船舶運航課程 **立野 良明**
(創価高等学校出身)

船舶運航課程では、海洋生産管理学科で学んだ航海や水産等に関する知識や経験を基礎として、合計6ヶ月間の乗船実習の中で船舶の操船や甲板作業、水産資源調査や海洋観測等の実習を行い、水産に貢献する航海士に必要な技術を学びます。学生として最後の実習で、乗組員の方々から丁寧な指導を受け、仲間達と試行錯誤しながら充実した日々を過ごせます。あなたも将来の水産に貢献する航海士を目指し、専攻科で夢を叶える一歩を踏み出してみませんか。



在校生紹介

専攻科船用機関課程 **原口 健太郎**
(福岡県立嘉穂高等学校出身)

専攻科船用機関課程では、海洋機械工学科で学んだ基礎知識を活かし、座学や乗船実習を通して、より高度な専門知識を実践的に学ぶことができます。乗船実習では、少人数で課題に取り組むことができ、3級海技士取得に向けて仲間たちと切磋琢磨し合える環境が整っています。入学当初は、想像もなかったような充実した日々を過ごすことができます。皆さんもぜひ専攻科へ進学し、船乗りを目指してみませんか。



修了後の資格

1. 海技従事者等免許

専攻科を修了し、要件を満たした者は専攻の分野により三級海技士（航海）あるいは三級海技士（機関）の国家試験受験の際、筆記試験が免除されます。また、第一級海上特殊無線技士の免許が与えられます。さらに、専攻科船舶運航課程修了者には、一級小型船舶操縦士免許及び特殊小型船舶操縦士免許が与えられます。

2. 船舶衛生管理者

専攻科を修了した者は国土交通省令に基づく船舶衛生管理者の資格が与えられます。

3. 教育職員免許状

- (1) 専門分野の社会的経験を経て、特別免許状を取得することができます。
- (2) 専攻科修了後、三級海技士の海技免許を取得し、5年以上船舶に関し実地経験を有する者は中学校二種（職業）、高等学校一種（商船）の免許状を取得することができます。

先輩からのメッセージ

専攻科船舶運航課程平成25年度修了 **志方 清美**
(株式会社 商船三井勤務)

皆さん海は好きですか？海洋生産管理学科から専攻科へ進学すると、水産、船舶運航、水産資源管理等を幅広く学ぶことができます。海に様々な興味がある方にはお勧めです。私は、外航船の航海士として水産物を含めた貨物を運ぶコンテナ船の他、様々な船に乗船し、陸上勤務ではLNG船の船舶管理を担当していますが、水産大学校での実習や水産資源調査を通して学んだ全てが今の私を形作っています。水産大学校で、一度しかない貴重な大学生活の特別な思い出を作られては如何ですか？



先輩からのメッセージ

専攻科船用機関課程令和3年度修了 **宮内 貴帆**
(国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校天鷹丸勤務)

私は水産大学校専攻科船用機関課程を修了後、水産庁に入庁し小樽の漁業取締船で取締業務に従事し、令和5年度より本校の練習船「天鷹丸」に機関士として配属されました。練習船では水産系海技士となるための乗船実習や海洋環境調査及び資源・生物生態調査等を行っています。練習船での実習は機関士として必要な知識や技術を基礎から学ぶことができる貴重な時間です。皆さんにも仲間たちと学ぶ時間を大切に、専攻科で学んでもらいたいです。



修了後の進路

国家公務員	水産庁、気象庁、国土交通省
地方公務員	島根県、京都府、大分県、宮崎県、長崎県、兵庫県、鹿児島県、千葉県、佐賀県、徳島県、鳥取県
各種団体	東京海洋大学、北海道大学、長崎大学、鹿児島大学、水産研究・教育機構（調査船、練習船（水産大学校））、海技教育機構、日本海洋レジャー安全・振興協会、日本小型船舶検査機構、海技振興センター、日本海事検定協会、新日本検定協会、海洋水産システム協会、海洋研究開発機構
水産関連企業	大洋エーアンドエフ、共同船舶、東栄リーファーライン、日本海洋事業、グローバルオーシャンティベロップメント、日本郵船、商船三井、川崎汽船、日本サルヴェージ、深田サルベージ建設、共栄マリン、川崎近海汽船、阪九フェリー、名門大洋フェリー、商船三井フェリー、オーシャントランス、太平洋フェリー、新日本海フェリー、宮崎カーフェリー、九州郵船、琉球海運、三徳船舶、JR九州高速船、五栄土木、ニッスイマリン工業、美須賀海運、佐渡汽船、石崎汽船、八馬汽船、松山・小倉フェリー、福神汽船、津軽海峡フェリー、栗林マリタイム、内海造船、山九、ダイハツディーゼル、商船三井テクノトレード、近藤海事、阪神内燃機工業、明治海運、日阪製作所、ヤンマーエネルギーシステム、旭洋造船、共和水産、フェリーさんふらわあ、三井 E&S マシナリー、関ヶ原製作所、日本海洋科学、ジャンボフェリー、宇和島運輸
その他の企業	NYK LNG シップマネージメント、NS ユナイテッド海運、飯野海運、鹿児島船舶、ENEOS オーシャン、上野トランステック、NTTワールドエンジニアリングマリン、ケイラインローローバルクシップマネージメント、東邦ガスエンジニアリング、TAIYO、菅原汽船、第一中央汽船、昭和日タンマリタイム、泉汽船、三原汽船、海洋技術開発、宇部興産海運、福永海運
進学	北陸先端科学技術大学院

理論と応用の研究能力を養う



水産学研究科長
博士（農学）
教授 山下 倫明

▶ 水産学研究科で学ぶこと

本校には本科卒業後、修業年限2年間の水産学研究科が設けられており、学内・外部の審査を経て、修士（水産学）の学位が授与されます。下関は、日本海や瀬戸内海、東シナ海に接して世界有数の漁場や漁港と、絶好の研究フィールドを有します。水産物は漁業生産から、加工や流通を経て、消費者に届けられますが、その技術は進歩し続けています。生産現場からは緊急の課題が次々に飛び込んできます。しかし、海洋での生命の営みは簡単に知ることはできません。ここで漁業の歴史や魚食を体験して、未来につながる研究課題を見つけて、最新の研究の技術や方法論を学んで下さい。

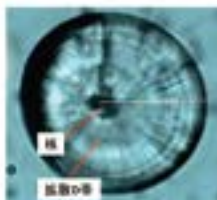
各専攻紹介

水産技術管理学専攻

海洋の漁場環境、海洋生物資源量の適性評価、漁船・漁具・漁法などと水産機械の合理化、高性能化、安全化を図ることを目的として、漁業並びに水産に関連する機械、機器の開発に必要な基礎学理と応用技術について研究するとともに、漁船運航の効率化を漁業生産システムと連動させた分野についての研究を行います。

漁業技術管理学専攻分野

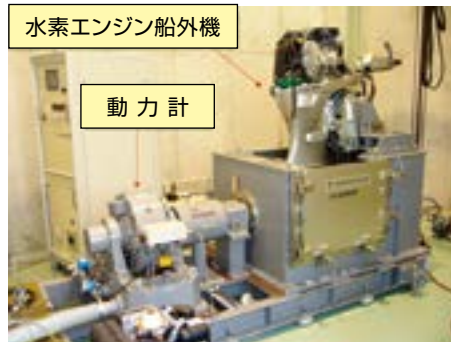
漁業生産における海洋環境、水産資源、漁業技術、漁船運航、水産経済などの研究分野



日本海における耕洋丸（練習船）の乗船調査実習にてリングネットで採集されたクロマグロ仔魚（左）とその耳石（右）（水産研究・教育機構の研究開発部門（水産資源研究所等）と人材育成部門（水産大学校）との共同調査より）

機関工学専攻分野

水産関連機械・機器、漁船機関、海洋エネルギーなどの研究分野



試作水素エンジン船外機の性能試験

水界における生物生産に関する基礎的学理を基盤として、魚介類資源の動態解析、有用魚介類の増養殖に係わる学理とその応用技術について研究するとともに、水産物の加工と保蔵に関して化学的、微生物学的及び工学的な学理と応用技術についての研究を行います。

水産資源管理利用学専攻

水産資源利用学専攻分野

水産食品安全学、水産加工利用学及び水産食品機能学の研究分野



産卵期マイワシの筋肉におけるプロテアーゼ活性の実験

水産資源管理学専攻分野

有用水産物や増養殖魚介類の生物学的、遺伝子工学的の研究分野



二枚貝の呼吸量測定実験

在校生紹介

水産資源管理利用学専攻 2年次生 柴田 喜子
(愛知県立豊田高等学校出身)

私はエビアレルギーを無毒化する研究に取り組んでいます。エビのアレルギー源を抽出し加工することで無毒化を目指しており、抽出工程や加工条件については担当教授と意見を交わし検討しています。

またティーチングアシスタントとして授業の実験の補助をしています。他学年との関わりがあり、とても楽しいです。

卒業研究ではこの分野について学びきれないと思い研究科に進学しました。より深く研究したい方にぜひ進学してほしいです。



先輩からのメッセージ

平成30年度修了生 和田 吉晃
(山口県農林水産部山口農林水産事務所勤務)

研究科時代は、未利用資源トビイカの生物・分布特性をテーマに、漁船に乗って調査、解析漬けの日々、海外での研究発表など、研究に特化した濃い2年間を過ごしました。県の水産職の業務は多様で、現在は水産行政に携わっていますが、研究科時代に培った経験や知識は様々な場面で活かすことができていると実感しています。また、この2年間で得られた経験により、職業選択の視野を大きく広げることができました。みなさんも研究科で自分の可能性を広げてみませんか。



◆水産学研究科の専攻分野、研究指導分野等は次のとおりです。

専攻	専攻分野	研究指導分野	定員
水産 産 理 技 術 学	漁業技術 管理 学	漁具・資源計測学、水産海洋環境学、航海・運用学、水産管理学	10名
	機関工学	計測・制御工学、内燃・環境工学、伝熱・機械工学	
水産 管 理 利 用 学	水産資源 利用 学	水産食品安全学、水産加工利用学、水産食品機能学	10名
	水産資源 管 理 学	資源生物学、資源環境学、資源増殖学	

修了後の進路

- 国家公務員** 水産庁、厚生労働省(検疫所)
- 地方公務員** 熊本県、山口県、福岡県、和歌山県、愛知県、大分県、北海道
- 各種団体** 北九州市生活科学センター、JICA、熊本県栽培漁業協会、山口県栽培漁業公社、兵庫県漁連、日本食品分析センター、大日本水産会、静岡県生活科学検査センター、新日本検定協会
- 水産関連企業** 日本水産、理研ビタミン、中島水産、マルハニチロ、東洋冷蔵、うおいち、沿岸海洋調査、第一製網、丸善、一番食品、トーホー、かねふく、キュービー、ショクリュー、三和、ドリスジャパン、ニチモウ、山本海苔店、第一水産、クラレイ、金子産業、岡部、横浜冷凍、沖縄美ら海水族館、日本配合飼料、清水建設、東亜建設工業、焼津水産化学工業、第一化成、池田糖化工業、海洋技術開発、シモセン、ダイキンアプライドシステムズ、日鉄テックスエンジニア、紀文食品、東京久栄、古野電気、マルテ小林商店、ダイショー、コスモ海洋株式会社、ダイキン工業
- その他の企業** 日本果実工業、山田養蜂場、日本ハム食品、雲海酒造、小糸工業、小樽倉庫
- 進学** 東京大学大学院博士課程、九州大学大学院博士課程、近畿大学大学院博士課程、北海道大学大学院博士課程、東北大学大学院博士課程、広島大学大学院博士課程、名古屋大学大学院博士課程

実習教育センター

各学科で行われている各種実習をより効率的に行うとともに、実学を重視した教育を充実させるために、実習教育センターを設置しています。

センターには、2隻の練習船（耕洋丸、天鷹丸）、実験実習艇（紺碧）及び小野臨湖実験実習場が所属しています。

練習船で学ぶこと

座学で学んだ知識を実務に適用させるための施設です。2隻の練習船で全学科の実習を行います。また、共同生活をおくることによって、社会人には不可欠の「義務」・「責任」・「規律」など協調性や指導統率力を養うことを目的とした教育施設です。



練習船「耕洋丸」

- 総トン数 2,352tons
- 国際総トン数 2,703tons
- L×B×D 87.59m×13.60m×8.80m
- 航行区域及び従業制限 第3種漁船(国際航海)
- 主機出力 ディーゼル 3,900kW
- 補助推進電動機出力 450kW
- 航海速度 14knots
- 信号符字 7JBZ
- 船質 上甲板以下鋼、上部甲板室軽合金
- 船籍港 下関
- 設備 STNS(セルフロール&ナビゲーションシステム)、漁具動態監視装置、トロール装置、延縄装置、マルチナロービーム海底地形探査装置、計量スキャニングソナー、計量魚群探知機、多層式ADCP、CTDシステム、多段開閉式ネット、船内LAN 他
- 定員 船員 42名 その他乗船者 67名 計 109名
- 竣工 平成19年6月



練習船「天鷹丸」

- 総トン数 995tons
- 国際総トン数 1,354tons
- L×B×D 64.67m×11.90m×6.98m
- 航行区域及び従業制限 第3種漁船(国際航海)
- 主機出力 ディーゼル 1,700kW
- 軸発電機兼補助推進電動機出力 400kW/350kW
- 航海速度 12knots
- 信号符字 7JGZ
- 船質 上甲板以下鋼、上部甲板室軽合金
- 船籍港 下関
- 設備 トロール装置、漁網監視装置、延縄装置、マルチナロービーム海底地形探査装置、広帯域計量魚群探知機、乱流計、サイドスキャンソナー、多層式ADCP、CTDシステム、多段開閉式ネット、水混合燃料生成装置、SCR(脱硝装置)、船内LAN、VSAT 他
- 定員 船員 28名 その他乗船者 59名 計 87名
- 竣工 平成29年10月

実験実習艇で学ぶこと



実験実習艇「紺碧」

主に水産大学校周辺海域において、実習及び海洋観測などの教育・研究活動に使用する小型艇。

- 総トン数 12tons
- L×B×D 15.55m×3.40m×1.90m
- 航海速度 17knots
- 最大搭載人員 28名
- 竣工 平成5年

実験実習場で学ぶこと



小野臨湖実験実習場

平成7年度建築 PC2階建
土地:7,559㎡
〒754-1311 山口県宇部市大字小野8319-2

人工湖である小野湖の湖畔に位置し、養魚池を保有していて、陸水生態系保全や淡水魚類を中心とした増養殖技術に関する実習を行っています。また、藻場や干潟の広がる山口湾に近く、そこを利用した内湾域の水産生物や海洋環境に関わる実験実習の拠点にもなっています。隣接の市町村の要請に応じて養魚指導や、地域と連携しながら、水産資源を増殖させる試みも行っています。



実習概要

(令和5年度入学生の場合)



学 科	年 次	科 目	期 間	実習内容 (キーワード)
水産流通経営学科	1年次	※水産物フードシステム実習	7日	水産物調理、水産物加工、捌く、評価
	2年次	※海洋水産実習 (練習船)	7日	練習船、トロール操業、イカ釣、海洋観測、産地卸売市場、水産物流通、規律ある生活
		※水産経済・流通調査	7日	漁村、漁業経営、産地卸売市場、漁業協同組合、漁協経営、産地地消、地場産業
	3年次	インターンシップ	40時間	水産行政機関、水産系統団体、水産関連企業など
海洋生産管理学科	1年次	※海技実習	7日	カッター操法、結索、遠泳、救急救命法、消火法、海の危機管理、海上安全
	2年次	※海洋生産実習 (練習船)	14日	航海・運用、法規、漁業、気象・海象、海洋物理・資源・環境
	3年次	※漁業乗船実習 (練習船)	1ヵ月	航海・運用、法規、漁業、気象・海象、海洋物理・資源・環境、英語
		インターンシップ	40時間	水産事業、船舶運航関連産業などの企業、各種団体、行政機関など
	4年次	遠洋航海実習 (練習船)	5ヵ月	航海・運用、法規、漁業、気象・海象、海洋物理・資源・環境、通信、英語
		漁業調査	7日	漁業生産活動
海洋機械工学科	1年次	海技実習	7日	水泳、カッター操法、結索、救助法、消火法、救急救命法
	2年次	※海洋機械実習Ⅰ (練習船)	7日	水産、海洋
	3年次	※海洋機械実習Ⅱ (練習船)	1ヵ月	水産、海洋、船内生活、船内規律、機関当直、機関操作
		インターンシップ	40時間	水産会社、漁業会社、造機・造船会社、船舶会社、各種団体など
	4年次	遠洋航海実習 (練習船)	5ヵ月	水産、海洋、船内生活、機関、推進、ディーゼル機関、補機、機関操作、運転、漁業実習
食品科学科	2年次	※食品製造学実習Ⅰ	7日	原料処理、すり身、練り製品、調理冷凍食品、水分活性、破断強度
	3年次	※洋上鮮度管理実習 (練習船)	7日	品質劣化要因・加工特性、船上水揚げ、船上漁獲物処理、鮮度判定、漁獲物貯蔵
		食品加工調査	7日	立案、自主性、解決能力、理解力
	インターンシップ	40時間	水産加工業・水産流通業などの企業、保健所など	
	※食品製造学実習Ⅱ	7日	水産食品製造、衛生管理、HACCP	
生物生産学科	1年次	※増養殖基礎実習	7日	魚介藻類増養殖、増殖環境、生物飼育、生物発生、生物分類技能
	2年次	※沿岸生態系保全実習	7日	沿岸生態系、藻場、干潟、藻場造成、干潟造成、環境保全
		※陸水生態系保全実習	7日	湖沼観測、一次生産、生態系保全、陸水生物、分類・形態、個体群、群集、生物資源
	3年次	※増養殖実習	7日	魚類養殖、生殖、発生、繁殖、育種、疾病の予防、養魚管理、バイオテクノロジー、魚類免疫、水産生物の増殖及び養殖の推進
		※海洋学および漁業実習 (練習船)	7日	海洋観測、漁具、漁法、漁場、持続生産、情報収集、データ処理
		インターンシップ	40時間	種苗生産事業、畜養・養殖事業などの企業、国・県・民間の研究機関など
	※水産施設調査	7日	養殖場、水産試験場、栽培漁業センター、魚市場、水産加工、情報収集	
専攻科	船舶運航課程	※乗船実習 (練習船)	6ヵ月	航海・運用、法規、漁業、気象・海象、海洋物理・環境、通信、英語、水産資源
	船用機関課程	※乗船実習 (練習船)	6ヵ月	水産、海洋、機関、推進、補機、機関操作・運転・保守、機関要務、船内工作、漁業、海洋調査

(注1) 科目欄の※は、必修科目。無印は選択科目。

(注2) 実習内容欄のうち、「インターンシップ」においては、受け入れ先。

サークル紹介

文化部

茶道部・軽音楽部・水の生きもの研究会・将棋部・海産無脊椎動物研究部・料理研究部・写真部・ESS同好会・サバイバル・ゲーム同好会・総合創作同好会・Clean Ocean National Volunteer Unity・Yoshimi Girls Collection など

体育部

軟式野球部・ダイビング部・サッカー部・バスケット部・バレー部・柔道部・空手道部・剣道部・軟式庭球部・ボクシング部・水泳部・硬式庭球部・卓球部・端艇部・ワンダーフォーゲル部・ヨット部・陸上部・弓道部・ラグビー部・バドミントン部・フットサル部・ビーチサッカー部・サイクリング部・硬式野球部・シーカヤック同好会 など



ダイビング部



バドミントン部



陸上部



ラグビー部



ワンダーフォーゲル部



ヨット部



弓道部



サイクリング部



空手道部



ビーチサッカー部



硬式野球部



水泳部



女子端艇部



剣道部



硬式庭球部



軟式野球部



柔道部



男子バスケット部



女子バスケット部



男子バレー部



卓球部



男子端艇部



軽音楽部



将棋部



茶道部



水の生きもの研究会



海産無脊椎動物研究部



Yoshimi Girls Collection



料理研究部



Clean Ocean National Volunteer Unity

大学祭



かいえんさい 海燕祭は水大キャンパスライフの ビッグイベント！

水産大学校では、^{かいえんさい}「海燕祭」と称した大学祭を毎年開催しています。毎年「軽音ライブ」、「ふぐ鍋の無料配布」、「ご当地アイドルによるライブ」や、水産をテーマにした「公開講座」や「研究室紹介」などを行い、多くの方々にご来場いただいています。

令和5年度の海燕祭は、水産大学校のHPにて開催日などをご案内する予定です。皆様のご来場をお待ちしています。



年間行事

4月

入学式
1年次生オリエンテーション
前学期授業開始
学生定期健康診断

7月

夏休み（7月下旬～8月31日まで）※実習はあります。

8月

オープンキャンパス

9月

前学期授業終了
前学期定期試験
補講

10月

後学期授業開始
大学祭

12月

冬休み（12月下旬～1月上旬まで）

2月

後学期授業終了
後学期定期試験
補講

3月

卒業式

社会貢献



公開講座の様子

本校では、特色のある教育研究の成果を活かし、一般の方々や水産関係者を対象として、以下のような活動を積極的に行っています。

また、産学官連携による受託研究、研究の成果を用いた技術指導など、様々な形で社会への貢献を行っています。

令和4年度の公開講座はWebオンデマンド方式で開催しました。

公開講座

毎年、一般の方々を対象に公開講座を行っています。

URL: www.fish-u.ac.jp/kenkyu/kouken/koukaikouza.html

最近のテーマ

令和3年度：「未来の食を支える技術～水産物の生産・調理・健康機能～」

令和4年度：「水大校研究の最前線を見てみよう!」



パネル展示の様子

海響館オープンラボ

市立しものせき水族館（海響館）1階の常設オープンスペースで、本校教員によるオープンラボを実施しています。海藻おしばアート、バフンウニの発生実験など海の生き物に関する展示・実演などを周年に渡り20テーマ程度実施しています。



下関市立しものせき水族館「海響館」全景



海響館1Fの常設オープンスペース



オープンラボの様子

その他

本校では、教育機関や水産団体等からの要請に応じ、生徒や水産関係者への研修を実施しています。また、漁業者対象の講習会などの講師として、全国各地に教員を派遣しているほか、小学校・中学校・高等学校を対象とした出前講義を実施しています。

国際交流

同じ道を目指す世界の仲間と、
知識を深め、技術を磨きあう幸せ



オンライン形式による学術交流（令和3年度：上海海洋大学での映像）

○学術交流に関する取り決めに基づき、釜慶大学校（韓国）、上海海洋大学（中国）及びSEAFDEC（東南アジア漁業開発センター）と交流を行っています。

釜慶大学校（平成7年より実施）

令和4年度はオンライン形式で学術交流会を開催し、本校からは理事（水産大学校代表）をはじめ教員11名、研究科生6名が参加し、水産分野に関する研究成果発表を行いました。

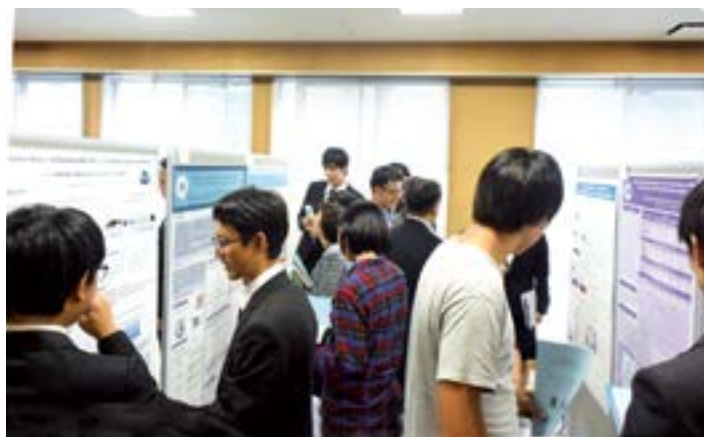
上海海洋大学（平成19年より実施）

令和4年度はオンライン形式で学術交流会を開催し、本校からは理事（水産大学校代表）をはじめ教員10名、研究科生2名が参加し、水産分野に関する研究成果発表を行いました。



国際交流会館 平成2年度建築
RC2階建

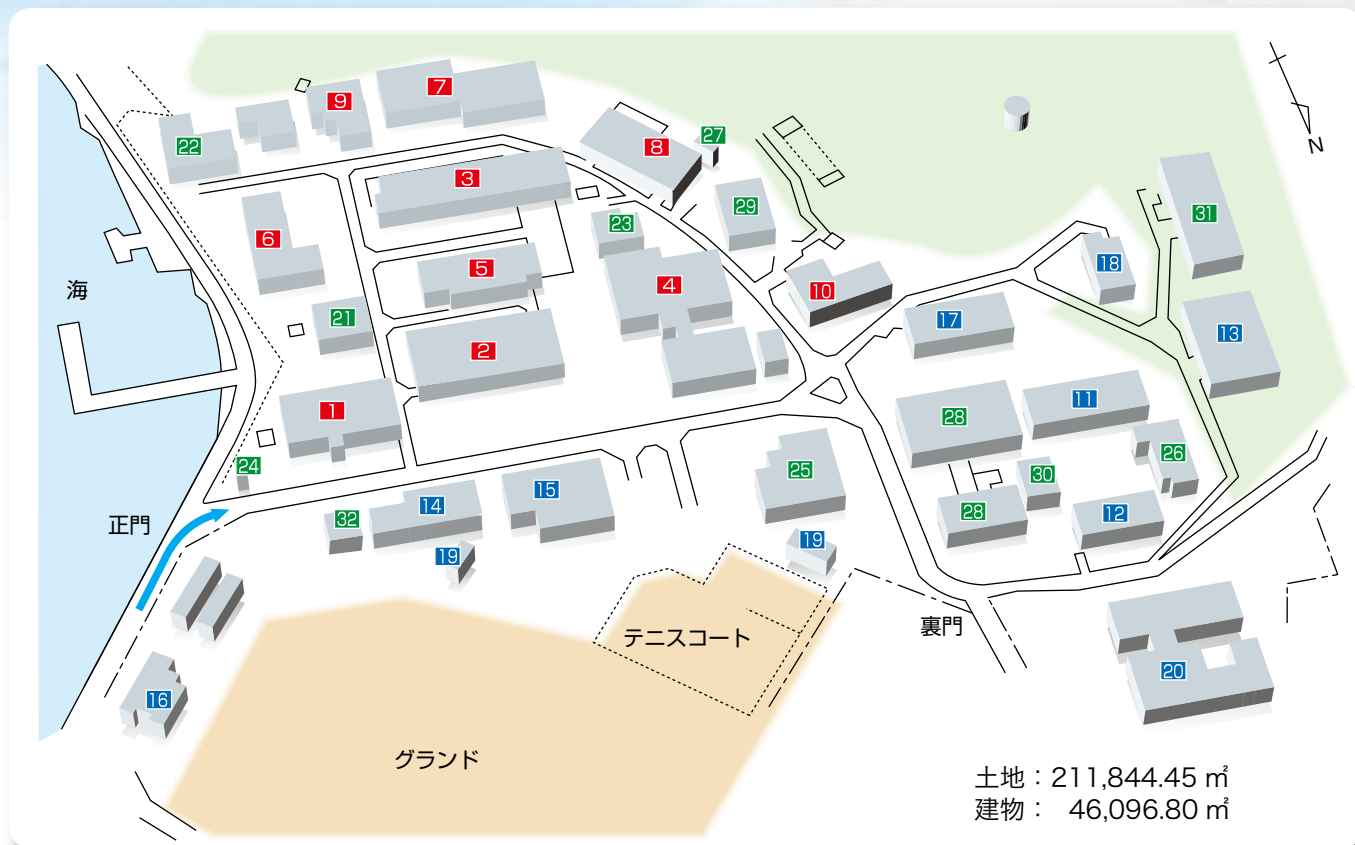
本校創立50周年を記念して平成2年10月に建設されたもので、海外からの研究員、研修員等の研修・宿泊施設として、本校における研究教育の国際交流の促進に寄与することを目的としています。



平成30年度釜慶大学校との水産分野における学術交流
（両校参加学生による研究発表会）

キャンパスマップ

広いキャンパス (21万㎡) に
最新の設備を備えた講義棟や多くの実験棟



- | | | |
|--------------|-----------------|----------------------|
| 1 本館 | 11 水産生物飼育培養棟 | 21 機械棟 |
| 2 講義棟 | 12 標本館(研究準備棟) | 22 国際交流会館 |
| 3 三学科共用実験棟 | 13 体育館 | 23 マルチメディアネットワークセンター |
| 4 二学科共用実験棟 | 14 武道館 | 24 守衛所 |
| 5 海洋生産実験・教室棟 | 15 学生コミュニティーホール | 25 図書館 |
| 6 舟艇管理棟 | 16 課外活動施設 | 26 水産生物飼育研究棟 |
| 7 内燃・制御実験棟 | 17 学生合宿棟 | 27 薬品庫 |
| 8 船用機械総合実験棟 | 18 クラブ活動棟 | 28 共同研究棟 |
| 9 海洋機械工作実習工場 | 19 クラブハウス | 29 水産情報館 |
| 10 食品加工実習工場 | 20 学生寮(滄溟寮) | 30 大型回流水槽棟 |
| | | 31 多目的学生教育棟 |
| | | 32 学生サポート棟 |



舟艇管理棟



船用機械総合実験棟



食品加工実習工場

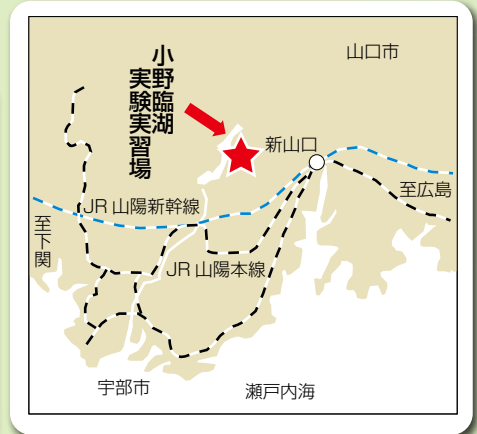
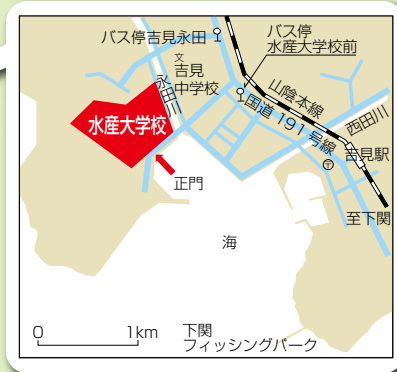
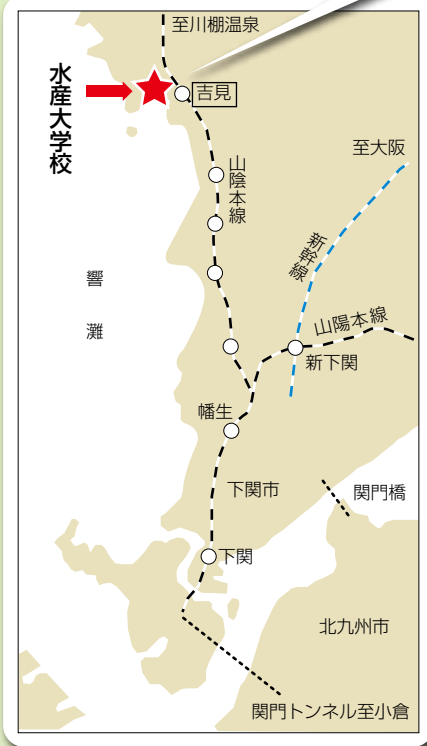


水産情報館

● 位置図

小野臨湖実験実習場

水産大学校



● 交通アクセス

JR利用

- 1 JR山陰本線「吉見駅」下車後、徒歩15分またはタクシー乗車5分
- 2 JR山陽本線「幡生駅」にて、JR山陰本線「小串・長門市方面」に乗り換え、その後は 1 参照
- 3 JR新幹線
 - 「新下関駅」下車後、タクシー乗車20分あるいはJR線「下関行」に乗り換え、「幡生駅」下車後、 2 参照
 - 「小倉駅」下車、JR線「下関行」に乗り換え、「下関駅」で下車後、 1 または 4 参照
- 4 サンデン交通バス利用
 - 下関駅前バスターミナル3番のりば（北浦線 24「吉母港行」または 35 35A「川棚温泉行」乗車）
 - 「水産大学校前」または「吉見永田」下車徒歩5分
- 5 山口宇部空港
 - 空港シャトルタクシー「下関行き」乗車、「下関駅」下車
 - その後は 1 または 4 参照
- 6 北九州空港
 - エアポートバスで「小倉駅バスセンター」へ、「小倉駅」からJR線「下関行」に乗り、「下関駅」で下車後、 1 または 4 参照
 - エアポートバスで「朽網（くさみ）駅」へ、日豊本線上に乗車、「小倉駅」下車、JR線「下関行」に乗り換え、「下関駅」で下車後、 1 または 4 参照
- 7 福岡空港
 - 福岡空港駅（福岡市地下鉄空港線）より乗車、「博多駅」下車「博多駅」から
 - JR山陽新幹線乗車「小倉駅」又は「新下関駅」下車 その後は 3 参照
 - JR鹿児島本線乗車「小倉駅」又は「門司駅」で「下関行」に乗り換え、「下関駅」下車後、 1 または 4 参照



空から見た水産大学校

令和6年度入試情報

※募集要項の内容に変更が生じた場合は、本校ホームページでお知らせしますので、必ず最新情報をご確認ください。

1. 募集人員

学 科	募集人員	募集人員のうち学校推薦型選抜による人員
水産流通経営学科	約20名	A・B・Cあわせて8名以内
海洋生産管理学科	約45名	A・Bあわせて22名以内
海洋機械工学科	約45名	A・Bあわせて22名以内
食品科学科	約45名	A・B・Cあわせて18名以内
生物生産学科	約30名	B・Cあわせて12名以内

※学校推薦型選抜A・B・C方式の募集の詳細については、募集要項で確認して下さい。

2. 入 試 日 程

入試方法	出願期間	試験日	合格発表日	試験場
学校推薦型選抜A・B・C ※一般公募制のみ 帰国子女特別入試	令和5年 10月16日(月)から 10月26日(木)まで(必着)	令和5年 11月11日(土)	令和5年 12月1日(金)	下 関
一 般 選 抜	令和6年 1月5日(金)から 1月18日(木)まで (消印有効)	令和6年 2月11日(日・祝)	令和6年 2月27日(火)	下 関 東 京 大 阪 福 岡

3. 選抜方法等について

いずれの入試制度においても、大学入学共通テストの受験を必要としません。
各選抜の詳細は、募集要項をご覧ください。

4. 過去の学校推薦型選抜・一般選抜の概況

令和5年度入試	学校推薦型選抜		一般選抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者
水産流通経営学科	11	8	29	31
海洋生産管理学科	42	22	111	59
海洋機械工学科	15	12	67	59
食品科学科	23	18	96	73
生物生産学科	45	12	238	77
計	136	72	541	299

入学者数	
	うち女性
20	0
53	12
40	8
46	14
30	6
189	40

令和4年度入試	学校推薦型選抜		一般選抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者
水産流通経営学科	13	7	35	30
海洋生産管理学科	27	19	80	72
海洋機械工学科	22	17	57	48
食品科学科	23	17	88	73
生物生産学科	35	12	218	65
計	120	72	478	288

入学者数	
	うち女性
20	5
43	6
46	4
48	19
28	10
185	44

※各学科の合格者数には、第2志望による者を含みます。

※追加合格があった場合にはその数も含みます。

※入学者数には学校推薦型選抜・一般選抜以外の制度による入学者を含みます。

5. 募集要項(願書付)等の請求方法

本校ホームページ(<https://www.fish-u.ac.jp/>)内の「入学案内」から、テレメールを利用して請求することができます。

また、パソコン等がご利用になれない場合は、直接本校に請求することも可能です。教務課までお問い合わせ下さい。



国立研究開発法人 水産研究・教育機構

水産大学校

〒759-6595 山口県下関市永田本町二丁目7番1号

TEL 083-286-5111 (代表)

TEL 083-286-5371 (入試専用)

FAX 083-286-2294

ホームページ <https://www.fish-u.ac.jp/>



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。